

JICA中部 2020年度 オンライン 開発教育指導者研修 報告書



目次

開発教育指導者研修の概要 -----	1
1 ● 開発教育指導者研修の目的	
1 ● 開発教育指導者研修（実践編）の内容	
2 ● 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2021 の目的・内容	
 オンライン開発教育指導者研修（実践編）事前オリエンテーション -----	4
4 ● 開催概要、事前オリエンテーションのねらい	
4 ● プログラムの内容	
 オンライン開発教育指導者研修（実践編）第1回 -----	7
7 ● 開催概要、第1回のねらい	
7 ● プログラムの内容	
 オンライン開発教育指導者研修（実践編）第2回 -----	14
14 ● 開催概要、第2回のねらい	
14 ● プログラムの内容	
 オンライン開発教育指導者研修（実践編）第3回 -----	23
23 ● 開催概要、第3回のねらい	
23 ● プログラムの内容	
 オンライン開発教育指導者研修（実践編）第4回 -----	31
31 ● 開催概要、第4回のねらい	
31 ● プログラムの内容	
 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2021 -----	35
35 ● 開催概要	
35 ● プログラムの内容	
41 ● 参加者アンケート結果	
 研修全体のふりかえり・評価 -----	44
44 ● 研修の期待と満足度について	
44 ● 開発教育・国際理解教育の実践について	
47 ● 全体を通して	
49 ● 開発教育指導者研修（実践編）への評価・提案	
50 ● 第4回つながりワークショップへの評価・提案	

- MEMO -

開発教育指導者研修の概要

■ 開発教育指導者研修の目的

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）は、日本社会への開発途上国地域の「知見の還元」と、市民に対する「考える機会の提供」、地域での開発教育推進のための「橋渡し役」を重点に置き、開発教育支援事業を実施しており、JICA の国内機関である中部センター（以下、「JICA 中部」）では、中部地域における開発教育支援事業のうち、初めて開発教育に取り組む人材を対象とした①開発教育指導者研修（初級編）と②開発教育指導者研修（実践編）および③教師海外研修を実施している。

そのうち開発教育指導者研修（実践編）は、中部地域における開発教育の中核的な指導者を育成することに加え、指導者間の連携強化およびネットワーク形成を行うことを目的として、開発教育の理論や具体的な教材事例、参加型学習の理論および実践方法（ファシリテーション）等の指導法の体系的な学習をするための研修として実施する。また、研修受講者は、学校・地域等における教育現場において自主的に開発教育を展開するほか、JICA の開発教育指導者研修（初級編）において指導を行うなど、地域の開発教育の中核的存在となることが期待される。

■ 開発教育指導者研修（実践編）の内容

(1) 日程・内容

下表のオンライン研修を通して、受講者自らが、当該教育の学び方を学び、当該教育の目的、扱う内容、参加型手法についての理解を深めると共に、実践者としてのスキルアップを図る。

【研修テーマ】 SDGs（持続可能な開発目標）とアクティブラーニング

回	日時	内容（予定）
事前オリエンテーション	9月26日（土）13:00～16:00	オンライン研修のために準備する。 オンラインの各機能を使ったワークショップを体験する。
第1回	10月3日（土）13:00～17:00 10月4日（日）10:00～15:00	当該教育の目的・内容・進め方を体験的に学ぶ。 私達の社会の現状課題を確認し未来への希望を語り合う。
第2回	11月7日（土）13:00～17:00 11月8日（日）10:00～15:00	テーマについて学ぶ、テーマのために学ぶ。 流れのある参加型プログラムを体験する。
第3回	12月5日（土）13:00～17:00 12月6日（日）10:00～15:00	気づきを行動に繋ぐ参加型デザイナー実践に向けて学ぶ。 多様な切り口からの学習者主体のプログラムを作る。
第4回	2月28日（日）13:00～16:00	教師海外研修ガイドブック作成特別編受講者と合同で、今後の東海地方の開発教育普及などについて対話する。

(2) 場 所 オンライン（Zoom）

(3) 対 象

原則として東海 4 県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校の教師及び教育委員会の指導主事等、地域国際化協会職員、NPO/NGO スタッフ、JICA 海外協力隊経験者等で、開発教育・国際理解教育を実践する場があり現在実践されている方

(4) 参加条件

- ① 原則、全研修日程に参加可能な方
- ② 本研修に関わる連絡・情報共有のため、E メールアドレスでの連絡が可能な方
- ③ オンラインによる研修のため、ウェブカメラ、マイクの付いたパソコン、高速ネット回線を用意でき、その操作が可能であり、事前オリエンテーションに参加可能なこと
- ④ 必要に応じて研修資料を各自で印刷することが可能なこと

(5) ファシリテーター

(特活) NIED・国際理解教育センター 代表 伊沢令子

ERIC 国際理解教育センターでの研修を経て、1998 年に名古屋で NIED・国際理解教育センターを設立。現在は、自治体、教育委員会、国際関係団体、大学・学校、NPO/NGO などの依頼により、年間 100 回以上の参加型ワークショップを実施している。当該研修は 10 年以上ファシリテーターを務めている。

- ◇ NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 代表理事
- ◇ オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習コーディネーター
- ◇ 中京大学「国際理解教育論」、愛知学院大学「ファシリテーション」非常勤講師

(6) 参加者数

32 名

所属内訳...小学校教員 8 名、中学校教員 6 名、高等学校教員 9 名、特別支援学校教員 1 名、教育委員会 1 名、教職大学院生 1 名、NPO 職員 1 名、JICA 関係者 4 名、その他 1 名
地域内訳...愛知県 19 名、岐阜県 4 名、三重県 2 名、静岡県 3 名、京都府 1 名、兵庫県 1 名、新潟県 1 名、北海道 1 名

(7) 参加費

無料。但し、オンライン受講に必要な機器、回線使用料は参加者負担。

■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2021 の目的・内容

(1) 目 的

JICA 中部の開発教育支援研修の成果を共有し、中核的指導者のスキルアップとネットワーク形成に資する。

(2) 日時

2021 年 2 月 27 日 (土) 10:00~12:30、14:00~16:30 (二部制)

(3) 場 所 オンライン (Zoom)

(4) 内 容

教師海外研修ガイドブック研修の成果として、海外で収集した教材（写真や情報などの素材）を参加型の開発教育アクティビティにするための方法とモデルアクティビティの実体験を、オンラインで行う。

- ① 海外で収集した教材を生かしたアクティビティの作り方
- ② 学びの柱3「共通の課題を知り、その影響と原因に気づき、課題解決の手立てを考え、行動につなげる」ためのモデルアクティビティの体験※

※ 午前の部と午後の部の構成は同じ。但し、午前の部が小学生向け、午後の部が中学・高校生向けのモデルアクティビティ。

(5) 対 象

オンライン開発教育指導者研修（実践編）受講者、教師海外研修ガイドブック研修受講者、過年度の開発教育指導者研修（実践編）および教師海外研修受講者、その他海外で収集した教材を生かしたアクティビティの作り方に関心のある方

(6) 参加条件

オンラインによる講座のため、ウェブカメラ、マイクの付いたパソコン、高速ネット回線を用意でき、その操作が可能であること。

(7) ファシリテーター

（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子（全体および午後の部）、久世治靖（午前の部）

(8) 参加者数

午前の部 22 名、午後の部 29 名、合計 51 名

所属内訳...小学校教員 18 名、中学校教員 10 名、高等学校教員 12 名、特別支援学校教員 1 名、教育委員会 1 名、教職大学院生 2 名、NPO 職員 1 名、JICA 関係者 4 名、高校生 1 名、その他 1 名

地域内訳...愛知県 30 名、岐阜県 7 名、三重県 3 名、静岡県 4 名、徳島県 2 名、兵庫県 1 名、石川県 1 名、東京都 1 名、茨城県 1 名、北海道 1 名

(9) 参加費

無料。但し、オンライン受講に必要な機器、回線使用料は参加者負担。

オンライン開発教育指導者研修(実践編) 事前オリエンテーション

■ 開催概要

- ◆ 日 時:2020 年9月 26 日(土) 13:00~16:08
- ◆ 場 所:オンラインミーティングツール Zoom (JICA 中部なごや地球ひろばセミナールームAより配信)
- ◆ 参加者数:
一般受講者 25 名、JICA 関係者 1 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 35 名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子
- ◆ オペレーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 川合真二
- ◆ グループファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 久世治靖、田口裕晃、鉄井宣人、夏目佳代子、伴和子、JICA 中部 江口職員

■ 事前オリエンテーションのねらい

- ① オンライン研修のために準備する。
- ② オンラインの各機能を使ったワークショップを体験する。

■ プログラムの内容

● セッションI 「研修の紹介と Zoom や Google アプリの基本的機能の確認」 9/26 13:00-14:28

1. 主催者挨拶／関わる人の紹介 (JICA 中部／NIED) 13:00-[06]* ※ [] 内の数字は所要時間(分)。以下同じ。

- ◇ JICA 中部 江口職員が主催者としてあいさつを行った。
- ◇ ファシリテーターが、本研修に関わるスタッフを紹介した。
- ◇ 受講者の接続状況を確認した。

2. 本研修のねらいとスケジュールの確認 13:06-[06]

- ◇ ファシリテーターが、本研修のねらいと進め方、事前オリエンテーションのねらいについて、レジュメを基に説明した。

3. ZOOMの基本的機能／アイスブレイク 13:12-[35]

3-1. ZOOMの基本的機能の体験 13:12-[24]

- ◇ 次の基本機能と操作方法を順番に体験した。
 - ・表示名を呼ばれたい名前に変える
 - ・ギャラリービューとスポットライト機能
 - ・画像ミュート
 - ・拍手などのスタンプ機能
- ◇ 受講者数人が、音声ミュートを解除して「好きな食べ物」をテーマに自己紹介した。
- ◇ ファシリテーターが、画面共有機能を使って「国際理解教育・開発教育とSDGs」についてミニレクチャーした。
- ◇ ファシリテーターコメント...知識を得るだけではなく、チカラやスキルを身につける国際理解教育は、ファシリテーターを含め、参加者主体で双方向に学び合いがあるという参加型を用いた学び方で進める。



3-2. 【ブレイクアウト①】自己紹介 13:36-[35]

- ◇ チャット機能を用いて、一人ひとりが一言自己紹介を打ち込んで共有した。
- ◇ Zoom ブレイクアウトセッション機能を用いて6つのグループになり、「自分のウリ」「最近の関心事」「研修参加の動機」をテーマに自己紹介した。
- ◇ ファシリテーターコメント...他者のことは話してみないと、聞いてみないとわからない。国についても同じ。多面的、多角的に情報を得ること、また当事者からの話をたくさん聞けば聞くほど、理解が広がり、深まる。研修本編でも、自己理解と他者理解を深めていくために自己紹介を繰り返していく。



4. リアルワークショップでの参加型手法と Zoom による代替方法の紹介 14:11-[17]

- ◇ ファシリテーターが、画面共有をしながらリアルワークショップの様子や参加型手法を、実演を交えながら紹介した。
- ◇ ファシリテーターコメント...開発教育・国際理解教育のワークショップでは、参加者の意識の流れに沿って積み上げ式で考えていく。その中で様々な参加型手法を用いながら、模造紙などの成果物を残しながら学びを積み上げていく。

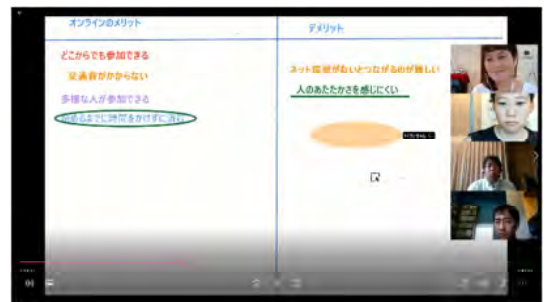
- 休憩 - 14:28-[07]

● セッション2 「オンラインによる代替手法の紹介と体験」 9/26 14:35-17:08

5. 体験してみよう!オンラインでグループワーク! 14:35-[81]

5-1【ブレイクアウト②】体験してみよう!オンラインでグループワーク!① 14:35-[47]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「好きな色と理由」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ Zoom 機能「ホワイトボード」を使い、「オンラインのメリット／デメリット」を対比表に書き出した。
- ◇ 続けて、同じく Zoom 機能「ホワイトボード」を使い、「このままコロナが続くと?」をグループで協力して派生的に書き出した。



【「オンラインのメリット／デメリット」成果物例】

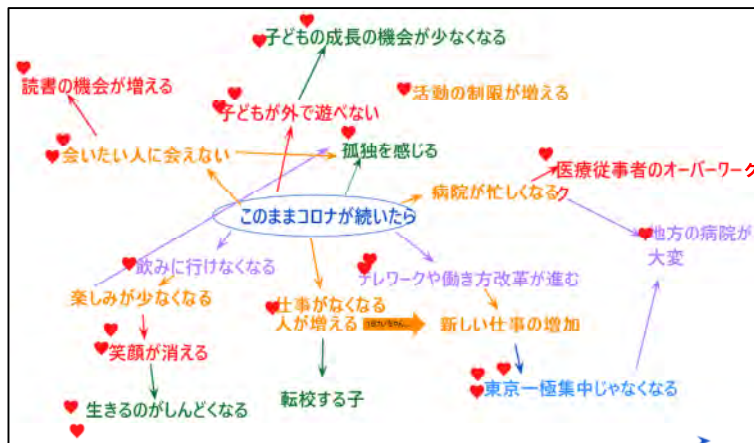
メリット

- ・移動時間が不要・お金がかからない・距離が関係ない・多様な人が参加できる・都合の良い場所でできる
- ・子どもが一緒でも参加できる・見えない部分はフリー・平日の夜でも参加できる・体調が悪くても参加できる

デメリット

- ・寄り道ができない・目が疲れる・場の空気が読みづらい・家族が映り込む・雑談がしにくい・なんだか疲れる
- ・ネットの接続状況に左右される・直接会えない・人のあたたかさを感じにくい・お金がかかる

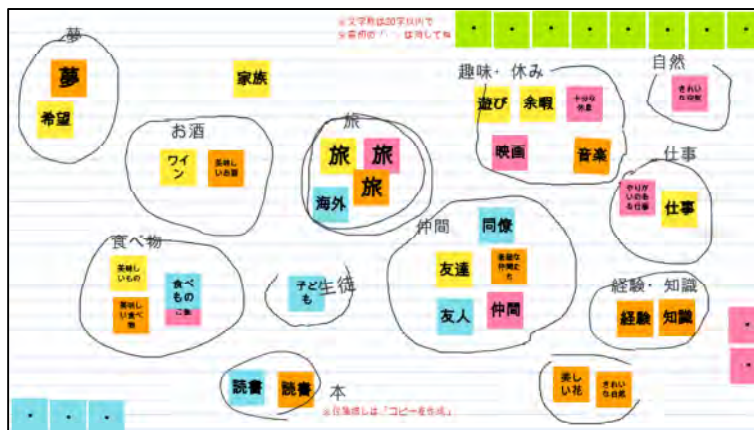
【 派生図「このままコロナが続くと？」 成果物例 】



5-2. 【ブレイクアウト③】体験してみよう！オンラインでグループワーク！② 15:22-[34]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「自分のウリ」をテーマに一言自己紹介を行った。
- ◇ ウェブアプリ「ジャムボード」を使って、参加型手法「カード式整理法（KJ法）」を用いて、「人生を豊かにしてくれるもの・こと」についてグループで話し合った。
- ◇ 全体に戻り、受講者が成果物を画面共有して、成果物と感想を紹介した。

【 KJ 法「人生を豊かにしてくれるもの・こと」 成果物例 】



6. オンライングループワークの感想とQ&A 15:56-[08]

- ◇ 受講者から操作方法などについて質問を受け付け、回答した。
- ◇ 本日の感想を数人が発表した。

7. 事務連絡 16:04-[04]

- ◇ 事務局より、今後の連絡方法についてなど連絡を行った。

★ 16:08 終了

オンライン開発教育指導者研修(実践編) 第1回

開催概要

- ◆ 日 時:2020 年 10 月 3 日(土)13:00~17:15、4 日(日) 10:00~15:12
- ◆ 場 所:オンラインミーティングツール Zoom (JICA 中部なごや地球ひろばセミナールームAより配信)
- ◆ 参加者数:
 - [1 日目] 一般受講者 27 名、JICA 関係者 5 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 41 名
 - [2 日目] 一般受講者 27 名、JICA 関係者 5 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 41 名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子
- ◆ オペレーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 川合真二
- ◆ グループファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 久世治靖、田口裕晃、鉄井宣人、夏目佳代子、伴和子、JICA 中部 江口職員

第1回のねらい

- ① 開発教育・国際理解教育の目的・内容・進め方を体験的に学ぶ。
- ② 私たちが生きる社会の現状課題を確認し、未来への希望を語り合う。

プログラムの内容

● セッションⅠ「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 10/3 13:00~14:48

Ⅰ. 主催者挨拶／本研修の目的および趣旨説明／スタッフの紹介 13:00~[13]

- ◇ JICA 中部 江口職員が、開会を宣言し、主催者として JICA 事業および本研修の目的・趣旨を説明した。

Ⅱ. 本研修のポイントと第Ⅰ回のねらいの確認 13:13~[07]

- ◇ ファシリテーターが、研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、参加型での進め方、第Ⅰ回のねらいについて、レジュメを基に説明した。



Ⅲ. 全体アイスブレイキング 13:20~[09]

- ◇ 『落ちた落ちたゲーム』…Zoom ギャラリービューで、ファシリテーターまたは参加者が出すお題にあわせて、落ちてくるもの(リンゴ、赤ちゃん、雨、雷など)をキャッチするジェスチャーゲームを行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…オンラインのワークショップでは参加者の反応が互いに見えづらいが、画面越しにも見やすいジェスチャーを使う工夫や、参加者がお題を出すことで、主体的に参加していることが感じられるのでよい。



4. 知り合おう！自己紹介名刺づくり&なぜここに？因果関係図づくりで個人ワーク

4-1. 自己紹介名刺づくり&なぜここに？因果関係図づくり 個人ワーク 13:29-[14]

- ◇ 白紙に①「自分を紹介するためのキーワード3つ」、②参加型手法「因果関係図」を用いて「なぜ？この講座の参加動機」、③「因果関係図を書いてみてわかったこと・気づいたこと3つ」を書き出した。
- ◇ ファシリテーターコメント...参加型学習の「参加型」というのは、単に、多様な人が参加するからというだけではなく、考えやすくするための考え方の枠組み（＝参加型手法）を多く使用するからである。

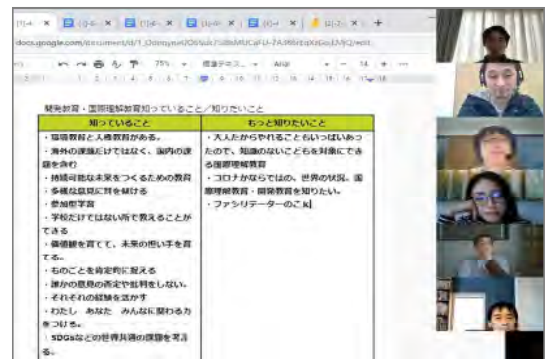


4-2. 【ブレイクアウト①】名刺で自己紹介 13:43-[27]

- ◇ Zoom ブレイクアウトセッション機能を用いて6つのグループになり、個人ワークで書き出した「自分を紹介するためのキーワード3つ」と「因果関係図を書いてみてわかったこと」を共有し、話し合った。

5. 【ブレイクアウト②】「開発教育・国際理解教育の知っていること・知りたいこと」 14:10-[38]

- ◇ 「今楽しみにしていること」をテーマに、グループで一言自己紹介を行った。
- ◇ 参加型手法「対比表」を用いて、「開発教育・国際理解教育の知っていること・知りたいこと」を話し合い、グループファシリテーターが書記係を担った。
- ◇ グループファシリテーターが、別のグループへ移動して、成果物を共有した。（成果物の回し読み方式）
- ◇ ファシリテーターコメント...開発教育と国際理解教育は目的、内容、手法は同じだが、前者は外務省、後者は文部科学省がそれぞれの呼び方を使っている。自分一人で考えても浮かばないアイデアがグループで考えると浮かび、グループ数が増えたと、さらに広がる。多くの人が参加して学ぶことの意義がそこにある。



【「開発教育・国際理解教育の知っていること・知りたいこと」の成果例】

知っていること

- ・環境教育と人権教育がある・人権、平和、環境などの課題と自分がつながっていることに気づく
- ・海外の課題だけではなく、国内の課題を含む・SDGsなどの世界共通の課題を考える
- ・参加型学習・気づきと行動・視野を広げる・準備された学びではなく、その場で生まれたものを優先する
- ・誰かの意見の否定や批判をしない・仲間を作って力を得る・対話によって多様な考えに出会える
- ・価値観を育てて、未来の担い手を育てる・主体性と動機づけをする

知りたいこと

- ・開発教育の「開発」って何？国際理解教育の「国際」って何？
- ・目標や目的の設定や評価の仕方・テーマの決め方・参加型手法・オンラインならではの参加型学習の手法
- ・他者の色々な考えを知るための手段や方法・自ら気づく、学ぶことへの声のかけ方
- ・教科の枠内でやれる国際理解教育の事例・参加者の実践事例
- ・周りの人の巻き込み方・学校内での実践仲間の作り方
- ・単発ではなく継続的に学ぶためには？・学校の中で継続的に実践していくための体制やシステムづくり

- 休憩 - 14:48-[13]

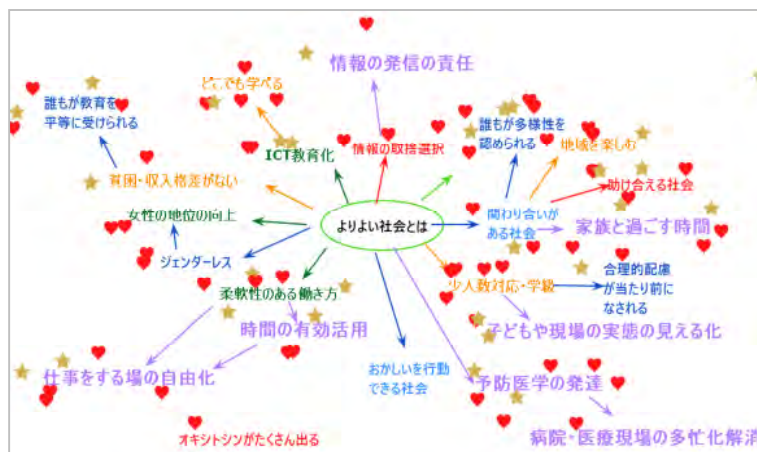
● セッション2 「COVID-19 と私たち」 10/3 15:01-17:15

6. 【ブレイクアウト③】「COVID-19 と私たち」(1) 15:01-[33]

- ◇ 個人で、新型コロナウイルスに関するニュースについての配付資料を読み、ニュースを見た「わたしの気持ち3つ」をワークシート①から選んだ。
- ◇ オペレーターがランダムにグループ替えを行い、新たなメンバーで、ワークシートにチェックした「わたしの気持ち3つ」とその理由をテーマに自己紹介した。

7. 【ブレイクアウト④】「COVID-19 と私たち」(2)～ポストコロナのよりよい社会のビジョン 15:34-[93]

- ◇ 新型コロナウイルス感染症をめぐる様々な意見・情報についての配付資料を読み、これからの「世の中で変わると思うこと・わたしが変えたいと思うこと」をワークシート④に書き出し、自分が大きく影響された情報はどのようなものだったか共有した。
- ◇ ポストコロナの「よりよい社会とは」について、Zoom 機能「ホワイトボード」を用いてグループにて派生的に書き出し、共有した。
- ◇ 受講者が自由にブレイクアウトルームを移動して、他のグループの成果物を確認し、その際「自分のグループにはなく面白いと思ったアイデアに♥や★印を付けた。(ギャラリー方式)
- ◇ 最初のグループに戻り、マークが付いたアイデアを確認した後、派生的に広げた「よりよい社会とは」を基に、「望むよりよい社会のビジョン 7 カ条」として 7 つの文章に個人でまとめた。その際、文章は、「～がある社会」「～ができる」などと肯定的な表現とした。
- ◇ ファシリテーターコメント…開発教育・国際理解教育は、人権・環境・開発・共生・平和など人類共通の課題は何かを理解し、課題を解決しながらよりよい社会をとともに創る力を育てる教育で、よりよい社会を人々とともに創っていく力と知識を身につけるといのが目的。体験と感情を共有するとコミュニティ意識が生まれ、これが課題を共有し、よりよい社会をとともに創っていくベースになる。



【 ポストコロナの「よりよい社会とは」の成果例 】

- ・暮らしを楽しむ・誰もが幸せ・他人にやさしくできる・いじめ、犯罪が少なくなる・ワークライフバランスがとれる
- ・企業の雇用形態の多様化・自分に合った働き方ができる・情報の取捨選択ができる・情報リテラシーが高い
- ・正しい情報を伝えられる・選択肢が多い社会・転職しやすい環境・失敗しても何回でもやり直せる
- ・安心して受けられる医療体制・オンライン授業の普及・どこでも学べる・誰もが教育を平等に受けられる
- ・空気がきれい・貧困、収入格差がない・地域を楽しむ・助け合える社会・誰もが多様性を認められる
- ・女性の地位の向上・ジェンダーレス・柔軟性のある働き方・オキシトシンがたくさん出る・関わり合いがある社会

【「望むよりよい社会のビジョン7カ条」の成果例】

- | | |
|----------------------------|--|
| 1 自分らしく、幸せに生きていける社会 | 1 働く場所・学ぶ場所を自由に選べる社会 |
| 2 多様性を認め、少数派にも配慮した社会 | 2 学ぶ権利・機会が保障されている社会 |
| 3 家族やコミュニティと繋がっている社会 | 3 困っている人がいつでも「助けて」と言え、
セーフティネットにつなされる社会 |
| 4 自分に合った仕事・雇用がある | 4 誰もが心身共に健康的な生活を送れる社会 |
| 5 充実した子育て・教育 | 5 課題を解決する力を市民自身が持つ社会 |
| 6 気配り・合理的配慮・思いやり・柔軟な対応ができる | 6 失敗しても何度でもいつからでもやり直せる社会 |
| 7 自分も周り（社会や自然も）も尊厳を守られている | 7 多様性が当たり前認められ、
傷つけ合うことのない平等な社会 |

8. 【ブレイクアウト⑤】ふりかえり 17:07-[06]

◇ 1日目の感想をグループ内で伝えた。

9. 事務連絡 17:13-[02]

◇ 事務局より、翌日のチェックイン時間、Zoom 最新版へのアップデート、Zoom ランチミーティング開放について連絡を行った。

★ 17:15 1日目終了

● セッション3 「世界と日本(わたしたち)とのつながり」 10/4 10:00-12:10

1. アイスブレイク 参加のウォーミングアップ～動と静～ 10:00-[13]

◇ 次の2つのアイスブレイキングを行った。

- ① 動:ストレッチリーダー
・リーダーに倣い、座ったままでできるストレッチをする。
- ② 静:瞑想深呼吸
・目を閉じて次の流れで深呼吸をする。
大きく息を吸って、ゆっくり息を吐く深呼吸×5回



2. 【ブレイクアウト①】先週1週間わたしがお世話になったもの 10:13-[34]

- ◇ 各自で白紙に、「先週1週間お世話になったものたち」をリストアップした。それらを①分類し、②なくてはならないもののトップ3を選び、③海外とつながりのあるものをチェックし、そこからわかること3つを書き出した。
- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「わたしの健康法」をテーマに一言自己紹介を行った。
- ◇ その後、各自でまとめた「リスト作りと分類からわかったこと」をグループで共有し、話し合った。
- ◇ **ファシリテーターコメント**…ここでは自分と世界とのつながりについて考えた。開発教育・国際理解教育が扱う内容は、①他者・他国と肯定的に出会う、②自分と他者のつながりに気づく、③同質性と多様性に気づく、④どの国にも越えなくてはならない課題があることを知る、⑤その課題を解決し、ともに生きていくためのスキルを身につける。

【「リスト作りと分類からわかったこと」例】

- ・自分の身体を作るもの、生活に必要なもの、便利に生活するためのものに分けられた。
- ・家電、電子機器が多く挙げられたが、部品含め世界に依存していると感じた。
- ・コロナ禍だからこそ必要となった物と、昔からずっと愛用してきたものが混在していた。
- ・メイドインジャパンの物が少ないと思った。世界に支えられて生活していることを感じた。
- ・世界とつながりのあるものは、その材料や素材を考えていくと多くのものにチェックがついた。

3. 『どうなってるの？世界と日本』@JICA ウェブサイト 10:47-[76]

3-1. 私たちの日常から途上国とのつながりを学ぶ 10:47-[13]

- ◇ JICA ウェブサイト『どうなってるの？世界と日本』を閲覧しながら、発展途上国の分布図、世界と日本を比較したデータ資料を確認した。

3-2. 【ブレイクアウト②】 世界と私たちのつながり～もしも他国とのつながりがなくなったら？ 11:00-[63]

- ◇ 各グループで、「コロナが終息したら、どこへ旅行したいか？+その理由」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ JICA ウェブサイト(小田家の1日)の「ごはん編」「モノ編」「ヒト編」「エネルギー編」を分担して読み解き、「わかったこと・印象に残ったこと」を共有した。
- ◇ 「もしも他国とのつながりがなくなったら？」を、Zoom 機能「ホワイトボード」を用いて派生的に書き出し、派生図から言えること3つを文章にまとめた。
- ◇ 受講者が自由にブレイクアウトルームを移動して、他のグループの成果物を確認した。(ギャラリー方式)



【「もしも他国とのつながりがなくなったら」&派生図から言えることの成果例】

- ・エネルギー資源がない・電気が使えない・エネルギーの奪い合いになり、戦争の火種となる・徴兵制が復活
- ・兵器の開発が進む・国が荒廃する・世界で豊かな国貧しい国の格差がひらく・観光業の収入の減少
- ・インバウンド消費の減退・労働力が足りなくなる・介護を担う人が足りなくなる・農産物の生産量が減る
- ・さらに食料が不足する・優しい気持ちになれなくなる・物流が途絶える・心に余裕がなくなる・衛生面が心配
- ・海外から伝染病が入ってこない・他国との情報共有や文化交流がない・世界から孤立する・固有種が守られる
- ・プラスチック製品が作れない・ゴミが減る・フードマイレージを抑えられる・人種差別が広がる

<派生図から言えること>

- ・他国とのつながりがなくなると豊かさを維持できなくなる ・新しい働き方、暮らし方を求めるようになる
- ・自然環境が改善され、自国の物が守られる・環境に良くなる
- ・自立と孤立は違う。お互いにうまく支え合っていく必要がある(経済活動、人の交流)
- ・人を信頼したり、助け合ったりする気持ちがなくなり、平和ではなくなる

4. 午前の活動のふりかえり 12:03-[07]

- ◇ 全体で、午前の活動のふりかえりを共有した。

● セッション4 「グローバル化の光と影」 10/4 13:00-15:12

5. グローバル 이슈と言え？ 13:00-[18]

- ◇ 全体で、数人(名簿の番号が5の倍数)が「グローバル 이슈と言え？」で思いつくものを発表した。

グローバル 이슈と言え

- ・温暖化・ジェンダー・在日外国人・途上国の支援慣れ・経済と環境の両立・ゴミ問題・食品ロス・コロナウィルス
- ・人種差別・大気汚染・生活習慣病・ゴミの越境・難民問題

6. SDGs から見た世界と日本の現状 13:18-[07]

- ◇ SDGs から見た世界と日本の現状についての資料を各自で読み解いた。

7. 【ブレイクアウト③】変えたいことは何？～課題を解決し、よりよい未来を実現するために役立つこと 13:25-[80]

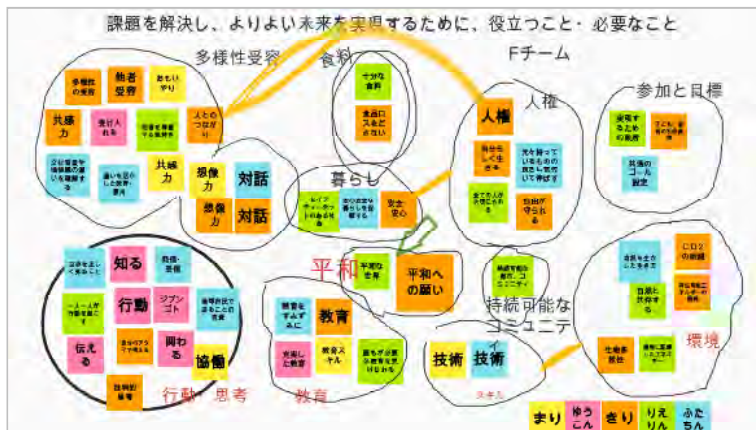
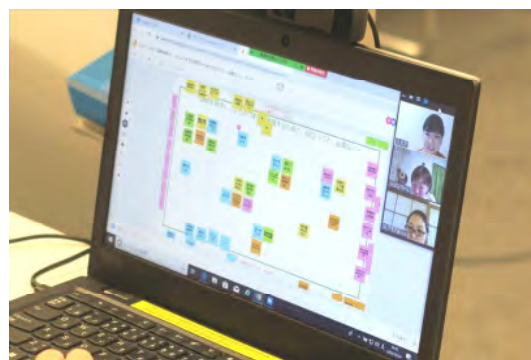
- ◇ 白紙に「自分、日本、世界のついで変えたいこと」を3つずつ書き出して表を作成した。そのうち、「自分・世界について変えたいこと」を1つずつ選び、それを①なぜ変えたいのか(理由)、②どう変わるといいのか(解決された後の姿)を別の白紙に書き出した。

- ◇ オペレーターがランダムにグループ替えを行い、新しいグループで「SDGs から見た世界と日本の現状についての資料で最も印象深かったこと」をテーマに一言自己紹介を行った。

- ◇ 各自がまとめた「自分・世界について変えたいこと」について、グループで共有した。

- ◇ Google Jamboard を使い、参加型手法「カード式分類法(KJ 法)」を用いて、「課題を解決し、よりよい未来を実現するために役立つこと・必要なこと」を整理分類した。

- ◇ 成果物を見ながら、「課題のある社会に生きる私たちがよりよい世界をともに築いていくために必要なものやこと」を箇条書きで書き出した。



【「課題を解決し、よりよい未来を実現するために役立つこと・必要なこと」の成果例】

- [マイノリティの権利]・男女平等が実現する法整備・女性枠・男性の育休・人種差別解消・多様化を認める
- [働き方]・働き方改革・リモートワーク[コミュニティ]・介護の工夫・高齢社会の対応・地域コミュニティの見直し
- [エシカル]・消費行動]・エシカル消費・フェアトレード・作りすぎない・ミニマリスト
- [教育]・自然に触れる・環境教育・生きがいを見出す・農業体験・学習機会の確保・科学的な根拠
- [物・資源を大切に]・適切な資源管理・使い捨て文化をなくす・修理の文化・上下水道の整備・再生可能な容器
- [政治への関心]・政治に関心を持つ・わかる範囲で政治の情報を集める
- [仲間づくり]・連携・協働・他国との連携・社会の一員として自覚を持つ・世界の友達を増やす
- [問題の把握]・正しい教育・正しい情報の発信・課題の根本的な問題を知る

【「課題のある社会に生きる私たちがよりよい世界をともに築いていくために必要なものやこと」の成果例】

- ・多様な生き方について正しい知識をもつ・問題の把握（他者理解、自己理解、多様性、現状の見直し）
- ・コミュニティ内でのビジョンをつくり共有する・コミュニティのつながりと活性化・仲間作り（共通理解）
- ・他者他国を尊重し理解する・環境についての意識改革をすすめる、環境への負荷を減らす
- ・1人ひとりが自分自身の課題と捉え、主体的に考え、実践できるような教育をする・国の仕組みづくり
- ・本当の意味での働き方改革がなされ、個々人が心の豊かさを持てるようになる・障害を通じた学びの場の確保
- ・課題だけに注目するのではなく、理想の未来の姿も見る・災害に強いコミュニティづくり

8. 持続可能なよりよい未来を作る開発教育・国際理解教育 ミニレクチャー 14:55-[07]

- ◇ ファシリテーターの板書記録を基に、第1回2日間のプログラムをふりかえった。
- ◇ ファシリテーターから、開発教育・国際理解教育の目的と育てたい3つの力をレクチャーした。

<開発教育・国際理解教育の目的>

人権、環境、開発、共生、平和など、人類共通の課題を理解し、課題を解決しながら、望むよりよい未来を共に創るスキルを育む。

<開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力>

- ① わたしに関わる力：わたし=自分自身…セルフエスティーム、自己理解、自己尊重
- ② あなたに関わる力：あなた=他者…コミュニケーション力、他者理解、他者尊重、多様性受容
- ③ みんなに関わる力：みんな=社会…参加協力、合意形成、対立解決、アドボカシー（社会的提言）

- ◇ ファシリテーターコメント…現状と希望の間のギャップを埋めるには、わたしたち一人ひとりの行動が大切になる。「知り・考える・気づく」と「気づく・考える・行動する」をつなげ、行動する人を育むのが、国際理解教育である。その一番の特徴は参加型で進めていくことにある。

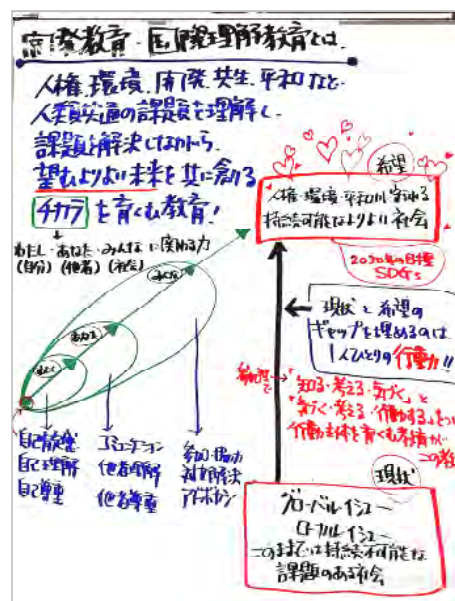
9. ふりかえり 15:02-[06]

- ◇ 数人が第1回の感想を全体で発表した。

10. 事務連絡 15:10-[02]

- ◇ 江口職員が終わりのあいさつを行い、研修を終了した。

★ 15:12 2日目終了



－ 研修で使った教材の出典等一覧 －

- ・セッション2-6. 「COVID-19と私たち」…認定 NPO 法人 開発教育協会 (DEAR) 『COVID-19と私たち』
- ・セッション2-6. 「新型コロナウイルス時系列ニュース」…NHK ウェブサイト『お家で学ぼう!for school』
- ・セッション3-1. 「私たちの日常から途上国とのつながりを学ぶ」…JICA ウェブサイト『どうなってるの?世界と日本』
- ・セッション3-2. 「世界と私たちのつながり～もしも他国とのつながりがなくなったら?」…JICA ウェブサイト『どうなってるの?世界と日本 小田家の1日』
- ・セッション4-6. 「SDGs から見た世界と日本の現状」…認定 NPO 法人国際協力 NGO センターウェブサイト

オンライン開発教育指導者研修(実践編) 第2回

開催概要

- ◆ 日 時:2020 年 11 月 7 日(土)13:00~17:20、8 日(日) 10:00~15:22
- ◆ 場 所:オンラインミーティングツール Zoom (JICA 中部なごや地球ひろばセミナールームAより配信)
- ◆ 参加者数:
 - [1 日目] 一般受講者 24 名、JICA 関係者 5 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 38 名
 - [2 日目] 一般受講者 26 名、JICA 関係者 5 名、NIED スタッフ 7 名、JICA スタッフ 2 名 合計 40 名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子
- ◆ オペレーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 川合眞二
- ◆ グループファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 久世治靖、田口裕晃、鉄井宣人、夏目佳代子、伴和子、JICA 中部 江口職員

第2回のねらい

- ① 開発教育の中心テーマである「人権」と「環境」について学ぶ流れのあるプログラムを体験する。
- ② テーマについて知り、テーマのために行動できるようになることを支える、開発教育の目的を確認する。
- ③ 「学んだ側の態度と行動が変わる」という最終目標に向け、人の行動変容を支える参加型について学ぶ。

プログラムの内容

● セッションI「アイスブレイキングと第1回ふりかえり」 11/7 13:00-13:52

1. 主催者挨拶／研修全体像と本日のねらいの確認 13:00-[14]

- ◇ JICA 中部 江口職員が主催者としてあいさつを行った。
- ◇ ファシリテーターが、研修のねらい、第2回のねらいについて、レジュメを基に説明した。また、本日の進め方について、グループファシリテーターは黒子に徹し、受講者が主体的に学びを進めることを確認した。
- ◇ **ファシリテーターコメント**...開発教育の最も大きな目的は、テーマについての知識を身につけることではなく、テーマについて学び、最終的にはテーマのために行動することのできる人を育てていくことである。

2. アイスブレイク 13:14-[05]

- ◇ 『落ちた落ちたゲーム』...Zoom ギャラリービューで、ファシリテーターまたは受講者が出すお題にあわせて、落ちてくるもの(リンゴ、赤ちゃん、雨、雷など)をキャッチするジェスチャーゲームを行った。



3. 自己紹介と第1回ふりかえり 13:19-[33]

3-1. 個人ワーク 13:19-[17]

- ◇ 個人で、①「Good or New or Fun で自己紹介」の準備、②第1回の記録を読み、「印象に残った部分3つ」を選び、自分の気持ちや考えをメモした。

3-2. 【ブレイクアウト①】自己紹介と3点コメント 13:36-[16]

- ◇ Zoom ブレイクアウトセッション機能を用いて6つのグループになり、個人ワークで書き出した「Good or New or Fun で自己紹介」と第1回の記録から「印象に残った部分3つ」を共有し、話し合った。
- ◇ ファシリテーターコメント...考えたこと、大切に感じたことを忘れてしまえば行動に繋がらないので、まずは覚えていられること、繰り返し言語化すること、他者に伝えるなどして意識化することで、行動に繋がりがやすくなる。そのために、前回のふりかえりをしたり感想を伝えあったりしている。

● セッション2 「人権についての教育&人権のための教育」 11/7 13:52-17:20

4. 日本と世界、人権が守られているところ／人権が守られていないところ 13:52- [49]

4-1. 【ブレイクアウト②】 13:52-[41]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、「自分の人権が守られていると思うこと／守られていないと思うこと」をテーマに、グループで自己紹介を行った。
- ◇ Google ドキュメントを使い、参加型手法「対比表」を用いて、「世界と日本、人権が守られているところ／守られていないところ」を話し合い、書き出した。
- ◇ グループファシリテーターが、別のグループへ移動して、成果物を共有した。（成果物の読み取り方式）
- ◇ 「他のグループとの共有を含めて、この作業からわかったこと3つ」をグループで話し合い、シートに追加した。



【「世界と日本、人権が守られているところ／守られていないところ」の成果例】

守られていると思うところ

〈日本〉・教育を受ける権利・宗教の自由・政治参加・表現の自由・医療・選択ができる・住む場所が選べる
・性の多様性

〈世界〉・表現の自由・女性の社会進出（北欧）・休日や休暇の保障・助けを求めることができる

守られていないと思うところ

〈日本〉・有名人のプライバシー・ジェンダー差別・シングルペアレントの社会的不利益・教育格差
・自由と権利の対立・外国籍住民の権利・体罰や児童虐待・いじめ・DV・ハラスメント

〈世界〉・教育を受けられない子どもがいる・児童労働、児童買春・労働力搾取・言論の自由・人種差別
・平和に生きる権利・女性蔑視・カースト制・政府による監視・医療

4-2. 全体共有 14:33-[08]

- ◇ 全体に戻り、グループごとに話し合った「この作業からわかったこと」を発表し、共有した。

【「世界と日本、人権が守られているところ／守られていないところ」を考えてみてわかったことの成果例】

- ・国や地域によって人権の状況はかなり違いがある
- ・選挙制度の重要性がわかった
- ・世界と日本を比較してみると、日本には法律や制度はあるが、個人の人権意識はあまりないのではないかと
- ・世界と日本と共通して出ているジェンダー問題だけれど、日本では問題になってくるのがおとなになってからで、子どものころから問題となっている世界との違いがあった
- ・日本国内において、外国籍の住民は人権が守られていない状況がある
- ・日本では、教育を受ける権利は進んでいる

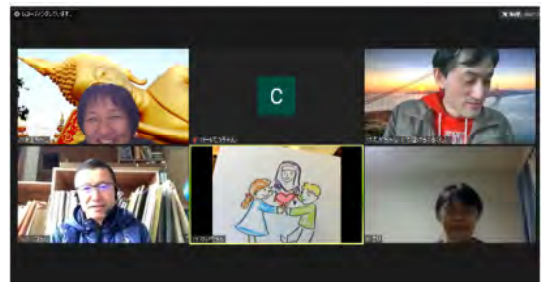
5. 人権とは何か 14:41-[42]

5-1. 資料「欲しいものではなく必要なもの」／「世界人権宣言30条」～人権を絵で描こう！ 14:41-[21]

- ◇ ファシリテーターが、資料①「欲しいものではなく必要なもの」を基に人権の定義と世界人権宣言について説明した。
- ◇ 個人で、資料②「世界人権宣言30条アムネスティ版」を読み、各自担当する「世界人権宣言」の条文を、誕生日の日付で割り振った。（31日生まれの人誕生月）
- ◇ 白紙に、割り振られた「世界人権宣言」の条文を絵で描いた。

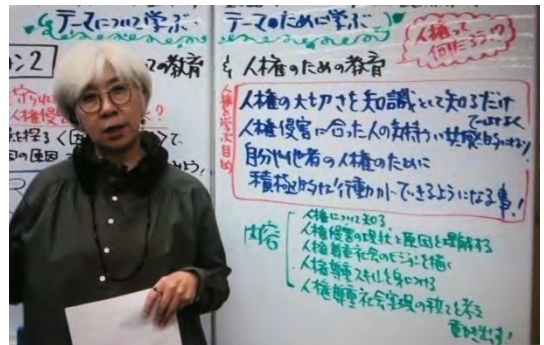
5-2. 【ブレイクアウト③】「絵で表した世界人権宣言」を共有しよう 15:02-[14]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「自分にとって最も大切な権利」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ 順番に自分の書いた絵を見せあい、メンバーが何条の権利か当てた。
- ◇ ファシリテーターコメント...リアルワークショップでやる場合、30条すべての条文を使って行い、成果物の絵を教室などに貼り出すことで人権意識を高めることに繋がっていくこともできる。



5-3. 「人権と人権教育」ミニレクチャー 15:16-[07]

- ◇ ファシリテーターから、資料①p.2 を基に「人権と人権教育」についてレクチャーした。
- ◇ ファシリテーターコメント...セッション 2 の前半は「人権についての教育」の学びをしてきた。セッション 2 の後半は人権を守るとは、自分が何をすることなのかということがわかり、できるようになっていくことを繋げていく「人権のための教育」の学びを行う。

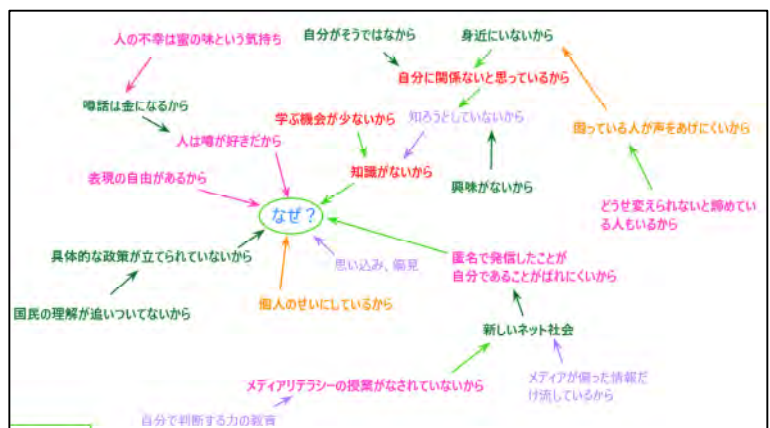


- 休憩 - 15:23-[11]

6. 人権侵害はどこにある？人権侵害はなぜ起きる？ 15:34-[59]

6-1. 【ブレイクアウト④】日本における人権課題の現状と原因 15:34-[54]

- ◇ 資料③「日本における主な人権課題の現状」をグループで分担し、担当した部分から「わかったこと・言えること・人権侵害の背景だと思ふこと」を記録しながら読み解いた。
- ◇ 資料を読み解いた結果や感想を共有した。
- ◇ Zoom 機能「ホワイトボード」を使い、参加型手法「関連図（因果関係図）」を用いて、「人権はなぜ守られないのか？人権侵害はなぜ続くのか？」について、グループで書き出した。
- ◇ 受講者が自由にブレイクアウトルームを移動して、他のグループの成果物を確認した。（ギャラリー方式）



6-2. 感想共有 16:28-[05]

◇ 全体に戻り、ここまでの作業の感想を発表、共有した。

- ・原因の原因を探ると、他の原因に繋がっている。メディアリテラシーや SNS など今日的な原因や背景も挙げられていた。
- ・自分自身が差別されている、していることに気づいていないということもある。人権意識がないことで、差別と気づいていない。
- ・「同調圧力社会」という意見が印象的だった。

7. 人権尊重社会実現のために必要なもの・役立つこと 16:33-[36]**7-1. 個人ワーク 16:33-[04]**

◇ 白紙に、個人で「人権尊重社会実現のために必要なもの・役立つこと」を書き出した。

7-2. 【ブレイクアウト⑤】人権尊重社会実現のために必要なもの・役立つこと 16:37-[32]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「わたしの弱点」をテーマに一言自己紹介を行った。
- ◇ 「人権尊重社会実現のために必要なもの・役立つこと」をグループファシリテーターが書記を担い、整理分類した。方法は、Google ドキュメントを使い、参加型手法「カード式分類法(KJ 法)」を疑似的に行った。
- ◇ 全体に戻り、グループファシリテーターが、分類したカテゴリーを発表、共有した。

【「人権尊重社会実現のために必要なもの・役立つこと」分類カテゴリー例】

- ・情報収集・教育・共感的理解・コミュニティづくり・正しく受発信・行政政策・自分を知る・知る機会をつくる
- ・行動する・固定観念を捨てる・多様性・情報教育・心の余裕・自分事にする・法づくり・地域づくり・つながり
- ・対等な関係・主張、意見表明・寛容さ・責任感

8. ふりかえり 17:09-[10]

- ◇ ファシリテーターが、人権教育の内容の内、本日のプログラムでは扱わなかった「人権尊重社会のビジョンを描く」アクティビティについて紹介した。
- ◇ 本日の感想を数人が発表した。

9. 事務連絡 17:19-[01]

- ◇ 事務局より、翌日のチェックイン時間、Zoom 最新版へのアップデート、Zoom ランチミーティング開放について連絡を行った。

★ 17:20 | 日目終了

● セッション3 「環境について学ぶ」 11/8 10:00-11:18

1. 第2回のねらいの再確認 10:00-[3]

- ◇ ファシリテーターが、研修第2回のねらいを説明した。

2. アイスブレイクと1日目のふりかえり 10:03-[16]

2-1. アイスブレイク ジェスチャーゲーム 10:03-[5]

- ◇ 指名された受講者がジェスチャーで「食べ物か動物」を表現し、他の受講者は Zoom チャット機能を使って、答えを書き込んでいった。



2-2. 【ブレイクアウト⑥】1日目積み残し「人権を守る、差別をしないとは自分がこう行動すること!」 10:08-[11]

- ◇ ランダムに3人グループに分かれ、「人権を守る、差別をしないとは自分がこう行動すること!」を肯定的な文章で伝え合った。
- ◇ ファシリテーターコメント...人権を守る、差別をしないということはどういうことなのか、言葉で表すことができれば行動にも繋がる。参加型手法「行動宣言」というものを用いて行った。

3. 環境問題どんな問題? 10:19-[27]

3-1. 個人ワーク 10:19-[08]

- ◇ 個人で、資料④チェックシート「4つの視点で環境行動チェック」に答え、気づいたことやなぜこれが環境問題?と疑問に思ったことをメモした。

3-2. 【ブレイクアウト⑦】環境問題どんな問題? 10:27-[19]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「一番長く使っているもの」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ チェックシートからの気づきや疑問を共有し、話し合った。
- ◇ グループの中で記録者を決め、参加型手法「ブレインストーミング」を用いて、「環境問題と聞いて思いつくこと、もの」を書き出した。
- ◇ 全体に戻り、「環境問題と聞いて思いつくこと、もの」をたくさん書き出したグループから順番に発表して、共有した。

【「環境問題と聞いて思いつくこと、もの」成果物例】

- ・ゴミ・大気汚染・温暖化・野生動植物・気候変動・海洋汚染・自然災害・砂漠化・エネルギー問題・氷河融解
- ・エネルギー枯渇・海面上昇・外来種・伝染病・水質汚染・酸性雨・身近なことを知る・食品ロス・越境汚染
- ・生物の絶滅

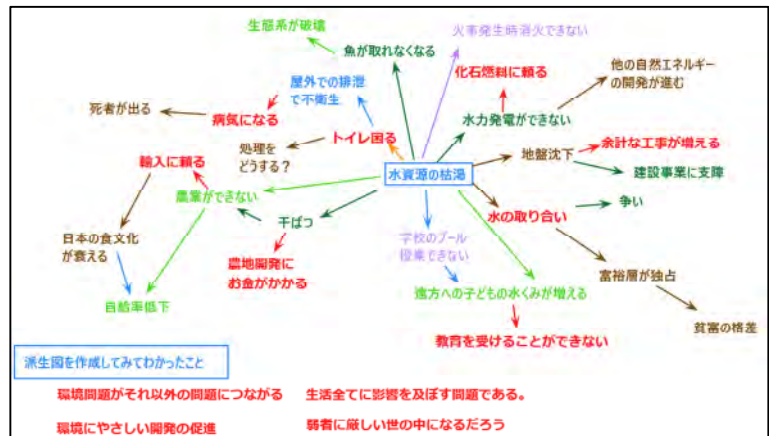
4. 環境問題、どうして問題?～影響編～ 10:46-[32]

4-1. 【ブレイクアウト⑧】環境問題の影響を予測しよう 10:46-[32]

- ◇ 環境問題「森林減少と砂漠化」「ゴミ問題」「生物多様性の損失」「水資源の枯渇」「気候変動」「大気・土壌・水質汚染」のうち、グループごとに担当する問題を割り当てた。

- ◇ 割り当てられた環境問題について、その問題の影響を、Zoom 機能「ホワイトボード」を使い、参加型手法「関係図（派生図）」を用いてグループで派生的に書き出した。その後、「派生図を作成してみてわかったこと」3つを書き足した。

- ◇ 受講者が自由にブレイクアウトルームを移動して、他のグループの成果物を確認した。（ギャラリー方式）



- ◇ 全体に戻り、数人が派生図をつくってみてわかったことや感想を発表した。

● セッション4 「環境のために学ぶ」 11/8 11:18-15:22

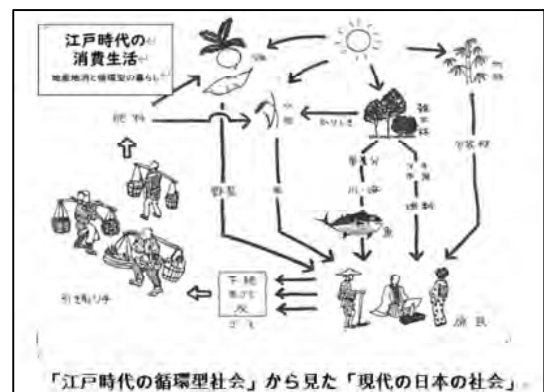
5. 持続可能な環境と循環 11:18-[37]

5-1. 「持続可能な環境4つのポイント」ミニレクチャー 11:18-[07]

- ◇ ファシリテーターから、資料⑤を基に、「持続可能な環境のための4つのポイント」についてレクチャーした。

5-2. 【ブレイクアウト⑨】循環していればずっと続く？物の循環を考えよう！ 11:25-[30]

- ◇ ファシリテーターが、江戸時代の消費生活を参考にした「シンプルで低エネルギーな循環」モデルについて説明した。
- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「この世の中から無くなったら困ると思う物」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ 「循環を分断しているもの」と「循環させるための工夫」をグループで考え、グループファシリテーターが記録者となり対比表に書き出した。
- ◇ グループファシリテーターが、別のグループへ移動して、成果物を共有した。（成果物の回し読み方式）



【「循環を分断しているもの」と「循環させるための工夫」成果物例】

分断しているもの

- ・過剰包装・都市への人口集中・人間の欲・人工的な物が多い・農薬や保存剤の使用・大量生産
- ・環境に悪いものの方が安価・命に対する有難みが薄い・便利さを優先・食生活の多様化・生産者が見えない
- ・過剰な衛生意識・必要以上に便利な機能・消費／賞味期限・個包装・核家族化・時短社会・庭や畑のない住宅

循環させるための工夫

- ・土に還せるものを作る、使う・リサイクルの仕組みをつくる・地産地消の推進・コミュニティの繋がりをつくる
- ・地域で循環を共有する仕組みづくり・消費者教育・旬のものを食べる・プラスチック製品を減らす
- ・再生可能エネルギーの利用・エシカル消費・シェアサイクル・次の世代に残せるものを作る、使う

6. 天然資源を消費して成り立つ私たちの暮らし 13:00-[68]

6-1. 人間が自然から受けている恩恵?! 13:00-[16]

- ◇ 「人間が自然から受けている恩恵」というものを数人が1つずつ発表し、ファシリテーターが板書した。
- ◇ 個人で、資料⑥「生物多様性がもたらす自然の恵み」を読み解いた。

【「人間が自然から受けている恩恵?!」成果物例】

・食べ物・水・太陽光・レジャー・石油など化石燃料・空気・植物の成長・酸素・星や月の癒し・動物とのふれあい
・温泉

6-2. 人間が消費している天然資源 13:16-[04]

- ◇ 「天然資源」と聞いて思い浮かべるものを数人が1つずつ発表した。
- ◇ ファシリテーターが、天然資源の定義を確認した。
定義：天然に存在して、人間の生活や生産活動に利用しうる物質、エネルギーの総称
(水、植物、森林、動物、水産資源、金属・鉱物、化石燃料、温泉など)

6-3. 【ブレイクアウト⑩】人間が消費している水、木材、エネルギー資源 13:20-[48]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは「動植物や他の自然物に生まれ変わるなら何?」をテーマに自己紹介を行った。
- ◇ グループの中で記録者を決め、「水」「木」「エネルギー」という3つの視点で生活をふりかえり、グループで話し合いながらワークシート(対比表)に記入した。
- ◇ 「水」「木」「エネルギー」に関する資料⑦を分担して読み解き、資料からわかったことを共有し話した。
- ◇ 全体に戻り、ここまでの作業を通して気づいたことや感想を発表して、共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント...変化は何事も1人からしか始まらない。環境活動の中で「1人の100歩よりも、100人の1歩」という言葉がある。身近なことから始めていく人が増えていくことが課題解決ためには大切。



【人間が消費している天然資源「水」「木」「エネルギー」成果物例】

毎日どんなことにどれくらいの「水」を使っている?

〈家庭生活で〉・お風呂・シャワー・トイレ・料理・洗濯・洗い物・洗面・飲み水・掃除

〈社会で〉・プール・温泉・農業・工場・洗車・水力発電・食品加工・除雪・噴水・テーマパーク・衛生維持

身の回りにあるもので「木」でできているものは?

・机・椅子・柱・家・本棚・紙・犬小屋・床・バット・楽器・皿、食器・燃料・文房具・おもちゃ

日常生活の中でどんなことに「エネルギー」資源を使っている?

〈家庭生活で〉・お風呂・料理・移動・PC 関係・連絡手段・通信手段・冷暖房・照明・娯楽

〈社会で〉・PC 関係・連絡手段・通信手段・冷暖房・照明・移動・発電・ゴミ処理・医療・栽培

【天然資源が急速に減少・枯渇したら、私たちの暮らしはどう変わる？困ることは？成果物例】

「水」

・干からびる・不衛生・産業が止まる・食の楽しみが減る・食糧が生産できない・治安悪化・地球温暖化の進行

「木」

・家が建てられない・安らぎがなくなる・教育が成り立たない・植物の減少・森林の保水力低下
・砂漠化や土砂災害の発生・動物の棲み処がなくなる

「エネルギー」

・交通機関が使えない・原始的な生活になる・料理ができない・暗い・寒い・夜間の活動ができない
・通学通勤が不便・情報が伝わらない

7. CO2はどこから？／有限な資源から再生可能な資源へのシフト ミニレクチャー 14:08-[4]

- ◇ ファシリテーターが、持続可能な環境のためのポイントの1つ「低炭素」について、全国地球温暖化防止活動推進センター発表資料（2018）などをもとに情報提供した。

8. 環境問題、どうして問題？～原因編～ 14:12-[47]

8-1. 【ブレイクアウト⑩】環境問題の原因を考えよう 14:12-[47]

- ◇ 環境問題「森林減少と砂漠化」「ゴミ問題」「生物多様性の損失」「水資源の枯渇」「気候変動」「大気・土壌・水質汚染」のうち、グループごとに担当する問題を2つずつ割り当てた。
- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、各グループでまずは自由にテーマを決めて一言自己紹介を行った。
- ◇ 割り当てられた2つの環境問題について、その問題がなぜ起きているのか、原因や背景を考えて書き出した。方法は、Google ドキュメントを使い、参加型手法「関係図（因果関係図）」を疑似的に行った。
- ◇ 「複数の環境問題の原因や背景を書き出してみたことから、総合してわかったこと」をグループで文章にまとめて書き出した。
- ◇ 全体に戻り、「複数の環境問題の原因や背景を書き出してみたことから、総合してわかったこと」を共有した。
- ◇ 環境問題の原因を考えてみて、数人がわかったこと・気づいたことを発表し、共有した。

5. 大気、水質、土壌汚染の原因	
直接原因	間接原因
除草剤、殺虫剤、化学肥料の使用	←安い、楽←環境よりも利便性
自動車の排気ガス	←移動のしやすさ←ハイブリッドや電気自動車が割高で購入しにくい
森林破壊	←ゴルフ場・大型商業施設などの建設←企業のコンプライアンスの欠如←ステークホルダーに対する責任の欠如
ゴミ、廃棄物	←野焼き、土に還らないもの←循環を意識した商品開発をしていない
企業努力不足	←利益を優先している
プラスチック製品多様多様	←便利←過剰包装
利便性を求めた開発	←多忙な日本人、ストレス社会

【「複数の環境問題の原因や背景を書き出してみたことから、総合してわかったこと」成果物例】

・利便性、手軽さを求めた開発により、環境問題に影響が出ている・「儲かること>環境」という風潮がある
・地産地消が大切・物を大事にすることが大事（おばあちゃん精神）・個人の努力で変えられる部分もある
・利便性の優先の結果が環境問題に繋がっている・環境よりも今までの習慣や文化、価値観が優先されている
・環境にやさしい生活を送るためのしくみが発達していない（再生可能エネルギーの利用など）・便利さの追求
・経済を優先して、資源の有限性に教育が至っていない・原因をたどっていくと自分たちの生活様式に行きつく
・技術の発展が皮肉にも環境を破壊（技術と環境のバランス）
・自覚して行動している人が少なく、具体的な行動が起こしにくい

9. ふりかえり 14:59-[19]

- ◇ 個人で、白紙に2日間のプログラムを通して「どんなことに気づいたか、それをどんな行動に繋げていくか？」を3つ文章で書き出し、数人が発表した。
- ◇ ファシリテーターが、資料①p.4を基に、「知識」「気づき」「スキルトレーニング」を提供することで、人の行動変容を支える参加型教育についてレクチャーした。

10. 事務連絡 15:18-[04]

- ◇ 後藤職員が終わりのあいさつを行い、研修を終了した。

★ 15:22 2日目終了

－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・セッション2-5. 「世界人権宣言アムネ스티版」…アニメ絵本『世界人権宣言』（金の星社）
- ・セッション2-6. 「日本における主な人権課題の現状」…文章：法務省ウェブサイト、グラフ：平成29年度愛知県人権に関する県民意識調査
- ・セッション3-3. 「4つの視点で環境行動チェック」…『はじめよう、未来へのアクション！「地球教室」基礎編』（朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会）
- ・セッション4-6. 「生物多様性がもたらす自然の恵みと生物多様性の危機」…リーフレット『地球に生きる生命の条約～生物多様性条約～』（国際自然保護連合日本委員会）
- ・セッション4-6. 「世界の水資源問題」…環境省ウェブサイト

オンライン開発教育指導者研修(実践編) 第3回

開催概要

- ◆ 日 時: 2020年12月5日(土) 13:00~17:20、6日(日) 10:00~15:20
- ◆ 場 所: オンラインミーティングツール Zoom (JICA 中部なごや地球ひろばセミナールームAより配信)
- ◆ 参加者数:
 - [1日目] 一般受講者 24名、JICA関係者 5名、NIEDスタッフ 6名、JICAスタッフ 2名 合計 37名
 - [2日目] 一般受講者 26名、JICA関係者 5名、NIEDスタッフ 7名、JICAスタッフ 2名 合計 40名
- ◆ ファシリテーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子
- ◆ オペレーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 川合真二
- ◆ グループファシリテーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 久世治靖、田口裕晃、鉄井宣人、夏目佳代子、伴和子、JICA 中部 江口職員

第3回のねらい

- ① 学びをアクティブにするための参加型手法と、ねらい達成に向けた流れのあるプログラムの作り方を学ぶ。
- ② 実際にテーマを設定し各自プログラムを作ることを通して、アクティビティとプログラムの関係を理解する。
- ③ 開発教育・国際理解教育を各自の現場で実践し、様々な場で参加型を活用するためのイメージを持つ。

プログラムの内容

● セッションI 「コミュニケーションと参加型とファシリテーター」 12/5 13:00~14:02

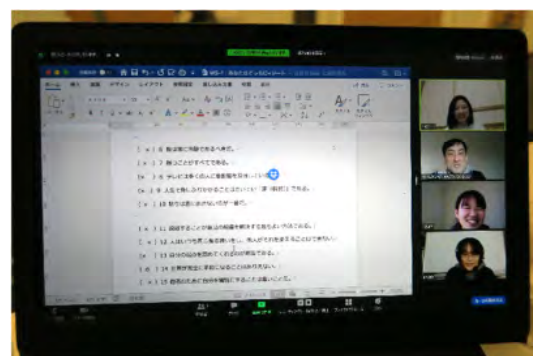
1. 主催者挨拶／研修全体像と本日のねらいの確認 13:00~[06]

- ◇ JICA 中部 江口職員が主催者としてあいさつを行った。
- ◇ ファシリテーターが研修のねらい、第3回のねらいについて、レジュメを基に説明した。

2. 自己紹介と第2回ふりかえり 13:06~[49]

2-1. 個人ワーク 13:06~[19]

- ◇ 個人で、3つの作業をした。
 - ①「お似合いのイニシャルで自己紹介」の準備
 - ②第2回の記録を読み、「印象に残った部分3つ」を選び、自分の気持ちや考えをメモ
 - ③「あなたはどっち?〇×アンケート」に答える



2-2. 【ブレイクアウト①】自己紹介と個人ワークの共有 13:25~[30]

- ◇ Zoom ブレイクアウトセッション機能を用いて6つのグループになり、個人ワークで考えた「お似合いのイニシャルで自己紹介」と第2回の記録から「印象に残った部分3つ」を共有した。
- ◇ 次に、「あなたはどっち?〇×アンケート」の15項目のうち5項目をグループで決め、それぞれの回答を紹介して話し合った。
- ◇ 全体に戻り、数人が感想を発表した。

- ◇ ファシリテーターコメント...この「○×アンケート」は、自分たちの多様さがはっきりとシンプルにわかり、回答が違っていても理由や背景を聞けば理解できることもある、ということが体感できる。文化の多様性を認めるということは、“異なるものに賛成をする”ということではなく、“自分たちとは異なるものもあるのだということ”を認めていく”こと。これは、ファシリテーターの根底として理解しておく必要がある。

3. 「ファシリテーターの4つの役割」と「ファシリテーターが理解しておくといいい3つのこと」 13:55-[07]

- ◇ ファシリテーターが、資料1を基に、ファシリテーターの役割についてミニレクチャーした。

〈「ファシリテーターの4つの役割」〉

- ①場づくり…安心感と楽しさの中で互いに学び合えるような場と流れをデザインする。
- ②関係づくり…自己理解、他者理解、相互理解が進み自由に語り合えるよう、参加と対話を促進する。
- ③構造化…ねらい達成のために、意見の発散と収束を重ね、整理し、プロセスと論点を視覚化する。
- ④合意形成…二項対立を超えた新しい合意や創造に向けて、肯定的な熟議と分かち合いを支援する。

- ◇ ファシリテーターコメント...参加型は万能ではないが、よりよい未来を一緒に創っていくための可能性を持った方法論である。このことをファシリテーター自身が理解しておくことは大切。

● セッション2 「参加型プログラムの多様な類型」 12/5 14:02-17:20

4. 「気づき」、「築き」、「スキル・トレーニング」-アクティビティの3種類- 14:02-[38]

- ◇ ファシリテーターが、資料1・2を基に、参加型プログラムにおけるアクティビティについてミニレクチャーした。
- ◇ 「スキル・トレーニング」のアクティビティ2つを体験した。

2つの「スキル・トレーニング」アクティビティ

1) 「いろんな聞き方」〈ロールプレイ〉

- ・ファシリテーターが、デモンストレーションした。

2) 「わたしメッセージ」〈シミュレーション〉

- ・ファシリテーターが、資料3を基に「わたしメッセージ」について説明した。
- ・各自で資料3の「あなたメッセージ」を、「わたしメッセージ」に言い換えて記入し、全体で数人が発表した。

- ◇ ファシリテーターコメント...ファシリテーターの役割の1つは、場づくりと関係づくり。そのために、ファシリテーター自身が「わたしメッセージ」を発し、安心できる場の雰囲気を作ることが大切。

- 休憩 - 15:40-[10]

5. 「ギャップアプローチ」と「ポジティブアプローチ」-2つのアプローチ- 14:50-[42]

5-1. 「ギャップアプローチ」=課題解決型 14:50-[30]

- ◇ ファシリテーターが、「ギャップアプローチ」=課題解決型のアクティビティ「地球温暖化問題解決のためにできること」をダイジェストで行いながら説明した。

〈「ギャップアプローチ」と「ポジティブアプローチ」〉

- ・「ギャップアプローチ」…理想と現実の間を課題として、その解決を図る「課題解決型」
課題解決の4ステップ(システム思考)=現状把握 → 影響予測 → 原因探求 → 手立て検討
- ・「ポジティブアプローチ」…ビジョン実現に向け、自分や組織の強みに光を当て活かす「ビジョン達成型」
人には“強み”と“弱み”があり、自分でも得意なところと苦手なところがわかっている。自分のできていないところに目を向け克服を試みるのではなく、組織やメンバーの価値や強みに焦点を当ててそれを高め、それらの組み合わせで目標達成に向けたパフォーマンスを高める。

「ギャップアプローチ」=課題解決型アクティビティ「地球温暖化問題解決のためにできること」

- 1) 「もし地球の気温が2℃上がった？良いこと／悪いこと」の成果物（予測図）を画面共有して説明した。
- 2) 資料5「コラム 地球温暖化について」を各自で読んだ。
- 3) 「地球温暖化問題解決のためにできること」について、マトリクス表の分類から担当を決め、各自で考えた。
- 4) 全体で、担当した項目を発表し、行動計画マトリクス表にまとめた。

地球温暖化問題解決のためにできること（プランニング）

	短期的（1年以内）	中期的（2～5年）	長期的（6年以上）
個人	・プラスチック製品購入しない ・カーボンフットプリントに注意して購入	・電化製品、自動車買い換えの際にエコ商品にする ・家族でエコ行動・商品のリストアップ	・公共交通機関を利用する ・太陽光発電を導入検討
学校 職場	・環境教育を積極的に行う ・節電	・ペーパーレス化 ・教育カリキュラムの作成と実行	・事業を気候変動対策化する ・屋上緑化
自治体 地域	・市民の啓発セミナーの企画・実施 ・太陽光発電、エコカーへの100万円助成	・エネルギーの地産地消計画 ・エコイベント（地域フリマ）、エコニュース	・車の数を減らす→カーシェアリング、駅前の自転車置場拡大 ・再生可能発電所立地のための助成
国	・エコな行動モデルを文字化・広報化 ・ガソリン車販売禁止のルールづくり	・中期的な温室効果ガス削減のロードマップ ・削減の指標づくり、次世代のトップランナー製品	・クリーンエネルギー中心の発電 ・二酸化炭素排出制限の法制化
国際 社会	・各国の情報共有 ・エコな商品がつかないムーブメント、世界的な巻き込み	・より良い取り組み国の技術を共有できるようにする ・途上国の発電システムの技術移転	・再生可能エネルギー導入の国際的な協力 ・二酸化炭素排出上位国への啓発活動の促進、その他の国の参入

<マトリクス表>



5-2. 【ブレイクアウト②】「ポジティブアプローチ」=ビジョン達成型 15:20-[101]

- ◇ 各自で資料6「ワールド・カフェの進め方」を読み、アクティビティの進め方を確認した。
- ◇ 参加型手法「ワールド・カフェ」を用いて、SDGsの目標を実現するために何ができるか、どうしたら楽しく実践できるかを考え、ポジティブなアイデアを話し合った。

「ポジティブアプローチ」=ビジョン達成型アクティビティ「SDGs 5つのP達成のためのアイデア」

- 1) オペレーターがランダムに5つのグループに分け、各グループでまずは一言自己紹介を行った。
- 2) 担当するテーマを確認し、各自で資料7「SDGsと5つのP」、資料8「SDGs17の目標 世界・日本の現状」、資料9「未来を変える目標SDGsと未来を変えたアイデア」の関わる部分を読み解いた。

<テーマ>SDGs5つのPとSDGsの認知度UP!

- ①People／人間（目標1・2・3・4・5・6）貧しさを解決し、健康でオタがい（？）を大切にしよう
- ②Planet／地球（目標12・13・14・15）自然と共存して、地球の環境を守ろう
- ③Prosperity／豊かさ（目標7・8・9・10・11）安心して暮らせる世界に使用
- ④Peace／平和（目標16）争いのない平和を知ることから実現しよう
- Partnership／パートナーシップ（目標17）みんなが協力し合う大切さ
- ⑤SDGsの認知度UP!

- 3) 担当するテーマを実現するために何ができるか、どうしたら楽しく実践できるかを、Zoom機能「ホワイトボード」を使い、気になるキーワードやアイデアをメモしながら自由に話し合った。
- 4) グループに残るカフェマスター1人を決め、そのほかの人は別のグループへ分かれて移動した。
- 5) 移動した先のグループのテーマに沿って、気になるキーワードやアイデアをメモしながら自由に話し合った。
- 6) 全員が元のグループへ戻り、出されたアイデアをまとめた。
- 7) 全体に戻り、各グループの代表者が話し合いのプロセスと、まとめたアイデアについて発表した。

- ◇ ファシリテーターコメント...ワールド・カフェで出されたアイデアを実現に近づけるために、“自分が情熱と責任も持って取り組んでもいいと思うもの”について企画、プレゼンをして仲間を募り、具体的な計画を考えるという「オープン・スペース・テクノロジー（OST）」というポジティブアプローチの手法もある。

【「SDGs5つのP 達成・認知度UPのためのアイデア」】



People（目標1・2・3・4・5・6）のアイデア

ジェンダーの枠組みを取っ払おう！／ 異業種とコラボして、コミュニティ全体で子どもを育てよう！／ 子どもの頃から外国との生の交流を増やす！

Planet（目標12・13・14・15）のアイデア

感動の嵐の経験！子どもの頃から自然の中に／ モデルとなるイケてるおとなに！／ 学校の部活動で ECO 部！国際理解を必修化！

Prosperity（目標7・8・9・10・11）のアイデア

豊かさのために、取り合いではなく分かち合い！／ 多様な産業に多様な人材を！多様な教員が多様な子どもたちの多様な選択肢を示す／ バーチャル博物館のデータ共有！

Peace（目標16）&Partnership（目標17）のアイデア

国の往来を自由に！文化交流から移民問題を自分事に！／ 国際会議に途上国の参加を！途上国は教育の対象ではなく、対等に学ぶ仲間！／ 国境？！No Border！〇〇人ではなく、地球人！1つの地球！

SDGs の認知度 UP!のアイデア

まず広報！世代ごとに届きやすい「多様な媒体」が肝／ 体験学習をすべての世代に！／ 多様な助成制度を「SDGs 助成金」として再編成！／ SDGs グッズの販売で経済促進！

6. ファシリテーターの3分類 17:01-[10]

- ◇ ファシリテーターが、ファシリテーターの3分類について説明した。

〈ファシリテーターの3分類〉

①「ワークショップファシリテーター」

レクチャーで行う研修などの一部に参加型を取り入れ、提供する。

②「プログラムファシリテーター」

1つの研修などをすべて参加型で構成し、提供する。

③「プロセスファシリテーター」

単発ではなく長期的に関わり、参加型のプロセスを支援する。

*教員やまちづくりに関わる人は「プロセスファシリテーター」

- ◇ 本日の感想、気づいたことを数人が発表した。

7. 事務連絡 17:11-[09]

- ◇ 事務局より、翌日のチェックイン時間等について連絡を行った。
- ◇ 第4回の開催方法についてのアンケートを行った。
- ◇ 「研修内で使用した資料については、出典を明らかにすれば教育現場での利用は問題ない。また、研修の記録については最終的に報告書にまとめ、公開されるので、現場等での共有も構わない。」旨、受講者に伝えた。

★ 17:20 1日目終了

● セッション3 「参加型手法を使って参加者を主人公に! 「場」をアクティブに!」 12/6 10:00-11:11

1. 本日のねらいの確認～アイスブレイク 10:00-[21]

- ◇ ファシリテーターが、研修第3回のねらいを説明した。
 - ◇ ランダムでペアになり、「この1年をふりかえって…」をテーマに60秒メッセージと傾聴を行った。
- 〈傾聴〉 あたま・こころ・からだを使って、共感を表しながら聴く方法。

- 1) 話し手と聞き手の役割を決めた。
- 2) 話し手がテーマについて60秒で話し、聞き手は傾聴した。
- 3) 聞き手は、話し手の話した内容を、30秒で振り返した。
- 4) 話し手は、3) の内容が自分の話した内容と違っていたり、不足していたりしたら、追加修正した。
- 5) 話し手と聞き手を交代し、1)～4) を同様に行った。

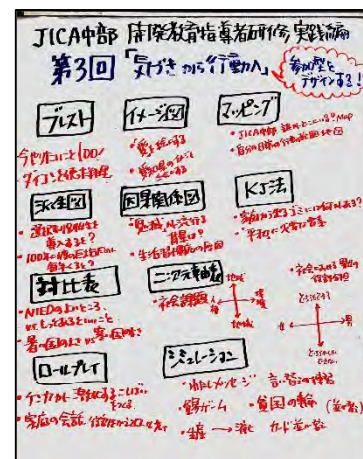
2. 参加型手法を使う目的と手法の種類と手法の習熟 10:21-[16]

2-1. 参加型手法を使う目的と種類 10: 21-[5]

- ◇ ファシリテーターが、資料10「参加型手法(ESD ハンドブック)」を基に参加型手法の種類についてミニレクチャーした。

2-2. 【ブレイクアウト③】1人で2種類の手法を各2つずつ考える 10:30-[41]

- ◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、まずは自由なテーマで自己紹介をした。
- ◇ 参加型手法を各自2つずつ担当し、その手法を用いて考えるテーマを手法1つにつき2つずつ考えた。
- ◇ 担当した手法について考えたテーマをそれぞれ発表して共有した。
- ◇ 全体に戻り、ファシリテーターが資料2「事前オリエンテーション、第1回研修、第2回研修で取り組んだアクティビティ」を基に、参加型手法を使う理由について説明した。



〈参加型手法を使う理由〉

- ・より多様な視点からクリエイティブに話し合うことが可能になる。
 - ・多様な視点や考え方がある人どうしが、共通の枠組みで話し合うことができる。
 - ・1つのテーマについてある枠組みに当てはめて分析することで、発見者同士共通理解を得られる。
 - ・話し合いの内容が可視化され、共有しやすくなる。
 - ・個人が考え、さらにグループで共に考えたプロセスが視覚的に残り、参加の満足感や達成感を得られる。
- “参加者が主人公になる”ということも、参加型手法を使うポイントである。

● セッション4 「参加型プログラムの作り方」 12/6 11:11-11:53

3. 参加型プログラムの作り方とプログラム作り実践 11:11-[42]

- ◇ ファシリテーターが、資料11「プログラムの作り方5ステップ+参考資料」を基に参加型プログラムの作り方を説明した。
- ◇ プログラムの作り方5ステップに沿って、個人でプログラム作りを行った。

1) ステップ0: テーマを決める

2) ステップ1: テーマを理解する

・参加型手法「ブレインストーミング」を用いて、テーマからイメージすること、テーマに含まれること、テーマから広がることを書き出した。

3) ステップ2: 自分の「ねがい」を見極める

・参加型手法「対比表」を用いて、参加者に「知ってほしいこと・気づいてほしいこと／考えてほしいこと・どうなっているのか」を書き出した。

4) ステップ3: 「ねらい」を定める

・これから作るプログラムの目標、プログラムを通して参加者に提供したいことを明確にし、文章化した。

(例1) ① _____ について知り、 _____ に気づく。

② _____ について考え、大切なことは何か共に確認する。

(例2) ① まちの課題を出し合い、問題の原因を探る。

② 望む町の姿を共有し、実現のための手立てを考える。

5) ステップ4: ストーリーラインを作る

・ステップ2で作った対比表に書き出されたものに、参加者の意識の流れに沿う(考えやすい)ように、順番に番号を振った。

・資料11p.3「4行詩」の例を参考にしながら、番号に従い、プログラムのねらい達成に向けた、起承転結(1文ずつ)のストーリーを作った。

6) ステップ5: 起承転結(4行詩)にアクティビティを当てはめる

・ステップ4で考えたストーリーライン1文に1つずつ、アクティビティを当てはめて、プログラムを考えた。

・プログラム詳細を考え、ワークシートに記入した。

- 休憩 - 11:53-[52]

3. 参加型プログラムの作り方とプログラム作り実践 12:45-[37]

◇ 参加型プログラム作り5ステップに沿って考えた内容を、個人でワークシートに書き出した。

● セッション5 「参加型プログラムの共有と提案」 12/6 13:22-14:20

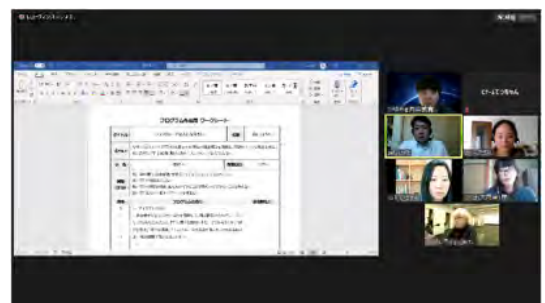
4. 参加型プログラムの共有と提案 13:22-[32]

4-1. 【ブレイクアウト⑤-1】

プログラムの紹介とよりよくするための提案 13:22-[58]

◇ オペレーターがランダムに6つのグループに分け、まずは「こう見えて〇〇なんです」をテーマに自己紹介をした。

◇ 順番にワークシートを画面共有しながら、考えたプログラムを紹介しあい、「いいね!とおもった点」と「よりよくするための提案」をざくばらんに話し合った。



● セッション6 「開発教育・国際理解教育の可能性と参加型のポイント」 12/6 14:20-15:20

5. 参加型の開発教育・国際理解教育 -取り組む機会と期待できる効果- 14:20-[37]

5-1. 【ブレイクアウト⑤-2】開発教育・国際理解教育はどんな教科や単元、どんな機会に取り組める？14:20-[17]

- ◇ 「開発教育・国際理解教育がどんな教科や単元、どんな機会に取り組むことができるか」を、グループファシリテーターが書記係となり、ポップコーン方式でアイデアを出し合った。
- ◇ 全体に戻り、アイデアを発表共有した。

【「開発教育・国際理解教育はどんな教科や単元、どんな機会に取り組める？」成果物例】

アクティビティ！つつつでも、いろいろな教科でやっていく／教職員研修の機会に働き方改革／生徒会・委員会・学級の係り活動の中で、SDGs も取り入れていく／文化祭・ユネスコスクールでの発表／英語：教科書の本文の内容につなげていける／朝の会、特活、授業開き／社会のごみの勉強、水、浄水場／道徳でも使える／買い物／総合的な学習の時間／理科のエネルギー分野／算数や社会の統計／芸術系の単元・演劇・音楽／道徳・人権学習の授業／姉妹校との交流／部活／修学旅行（東京、富士山周辺）／ALT との交流／国語のディベート／ラジオやテレビの娯楽／居酒屋／マルシェ／高校世界史／（中学）社会科、英語（ソーラークッカー等の環境にやさしい取り組みの英文を読み取ってパンフレットにまとめる）／家庭科での消費生活や調理実習（ロスを減らす、水）／理科で環境を扱う（プラスチック）／（小学校）生活科、全教科いけそう／（小学校）算数グラフを読み取る／人権週間に児童会（全校）で人権クイズに取り組む／（小学校）社会、ごみ処理の学習、浄水場の学習／防災／チームビルディング／特定の環境下で共同生活している子どもたち（児童養護施設など）／集団生活／地球について考える単元／算数でフードロス 残菜の割合の計算／4年生総合 人と環境／図工読書感想画 環境破壊について／給食 どの食材がどこからくるか／対立解消／父の日、母の日／英語の単元 マンデラの話から人権につなげる／小学校の英語 環境 自給率／クラス運営 学活 クラスの約束事／野外学習／学校のルール作り など

5-2. 【ブレイクアウト⑥】開発教育・国際理解教育に取り組むことで期待できる効果 14:37-[23]

- ◇ 個人で、「開発教育・国際理解教育に取り組むことで期待できる効果」を考えて、書き出した。
- ◇ ランダムに6つのグループに分かれ、「開発教育・国際理解教育に取り組むことで期待できる効果」について、参加型手法「カード式整理法（KJ 法）」を疑似的にを行い、整理した。
- ◇ 全体に戻り、整理したキーワードを発表、共有した。

【「開発教育・国際理解教育に取り組むことで期待できる効果」成果物】

自己理解／他者理解／感謝／課題解決能力／仲間／コミュニティ／自信／自分事／ソーシャルスキル／気づき／共感／行動変容／感染力／楽しさ／関係性／多様性／主体性／多面的、俯瞰的／対話／楽しさ／分類のチカラ／つながり／当事者意識／良好な人間関係／正しい情報を多面的に知る／スキルアップ／あなたに関わる力／共に平和（信頼関係、共感）／学ぶ意欲が高まる／SDGs／他者への関係／自分／自然／雰囲気（学級、職場）／アウトプットしたくなる

6. ふりかえり 15:01-[17]

- ◇ ファシリテーターが、プログラム評価の指標例について説明した。

〈プログラム評価の指標例〉

- | | |
|------------------------------------|----------------------------|
| ・ねらいは達成できるか | ・インプット、考える、アウトプットのバランスはよいか |
| ・参加者の意識の流れに沿っているか | ・手法は多様で適切か |
| ・対象者のニーズ、関心に合っているか
（簡単すぎず難しすぎず） | ・参加の楽しさ、達成感はあるか |
| ・気づきや発見など持ち帰れるものはあるか | ・参加者、学習者が主人公になれるか |

◇ 個人で第3回の感想や気づきを考え、全体で数人が発表した。

◇ ファシリテーターコメント...NIED には「国際理解教育を生き方に」という合言葉がある。教科内での実践だけではなく、生き方としてみなさんも実践していただけたらとおもっている。

7. 事務連絡 15:18-[02]

◇ 本日作ったプログラムのワークシートの提出を依頼し、後日取りまとめて共有する旨、受講者に伝えた。

◇ 後藤職員が終わりのあいさつを行い、研修を終了した。

★ 15:20 2日目終了

－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・セッション2-5. 「もし地球の気温が2℃上がったら（結果予測図）」…『若者と学ぶ ESD・市民教育—グローバル社会に生きる私たち』（開発教育協会）
- ・セッション2-5. 「コラム 地球温暖化について」…『若者と学ぶ ESD・市民教育—グローバル社会に生きる私たち』（開発教育協会）
- ・セッション2-5. 「ワールド・カフェの進め方」…参考『ワールド・カフェ カフェ的会話が未来を創る』（アニータ・ブラウン、デイビッド・アイザックス著）
- ・セッション2-5. 「持続可能な開発目標（SDGs）とは」…『先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標—SDGs—アクティビティ集』（（公財）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）
- ・セッション2-5. 「SDGs の考え方」…『SDGs を広めたい・教えたい方のための『虎の巻』（国際連合広報センター）
- ・セッション2-5. 「世界を変えるための17の目標 SDGs 世界・日本の現状」…認定 NPO 法人国際協力 NGO センター（JANIC）ウェブサイト <http://www.janic.org/world/about/>
- ・セッション2-5. 「未来を変える目標 SDGs と未来を変えるアイデア」…『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』（一般社団法人 Think the Earth）
- ・セッション3-2. 「参加型学習・研修のファシリテートのポイントと手法」…『環境学習実践者向けESDガイドブック「ESD はじめの一歩」』（名古屋市、NIED・国際理解教育センター伊沢令子執筆箇所）

オンライン開発教育指導者研修(実践編) 第4回

開催概要

- ◆ 日 時: 2021 年 2 月 28 日(日) 13:00~16:31
- ◆ 場 所: オンラインミーティングツール Zoom (JICA 中部なごや地球ひろばセミナールームAより配信)
- ◆ 参加者数:
オンライン開発教育指導者研修(実践編)受講者 25 名、教師海外研修ガイドブック作成編受講者 12 名、JICA 関係者 5 名、NIED スタッフ 6 名、JICA スタッフ 3 名 合計 51 名
- ◆ ファシリテーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子
- ◆ オペレーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 川合真二
- ◆ グループファシリテーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 久世治靖、田口裕晃、鉄井宣人、伴和子、JICA 中部 江口職員

第4回(つながりワークショップ)のねらい

オンライン開発教育指導者研修(実践編)と教師海外研修ガイドブック作成編の2つの研修の成果を共有し、開発教育・国際理解教育の実践継続のモチベーションやつながりを構築する。

プログラムの内容

1. 主催者挨拶／本日のねらいの確認と2つの研修の内容共有 13:00-[17]

- ◇ JICA 中部 後藤職員があいさつした。
- ◇ ファシリテーターが第4回のねらい、2020年度の2つの研修の内容について説明した。
- 〈教師海外研修ガイドブック研修〉
今後、教師海外研修を受講する人が、海外での学びをどう開発教育実践につなげていくことができるか、その参考になるようなガイドブックを、過去の教師海外研修受講者により作成した。
- 〈オンライン開発教育指導者研修(実践編)〉
国際理解教育、開発教育、参加型学習の目的と内容と進め方を学ぶ。持続的かつ効果的な開発教育を実践する中核的な指導者を育成するという目的と内容は例年通りだが、オンラインでの開催となった。

2. 【ブレイクアウト①】それぞれの研修の成果 13:17-[30]

- ◇ Zoom ブレイクアウトセッション機能を用いて、同じ研修を受けた人同士で6つのグループになり、「最近うれしかったこと」をテーマに一言自己紹介をした。
- ◇ 「研修の成果」を自由に話し合い、書き出した。
- ◇ 全体に戻り、グループの代表者が発表して共有した。



【「研修の成果」一部抜粋】

ガイドブック研修

改めて研修内容や教材を見返す機会になった／汎用性のあるアクティビティを考えることができた／様々な手法を使ったアクティビティを知ることができた／訪問国の魅力の再確認／様々な校種の実践を知ることができた／対面式で研修ができることの素晴らしさを再確認／コロナ禍においての参加型国際理解教育のやり方を考えることができた／研修のねらいを通して、生徒にこうなってほしいということを考えることができた／自分では考えにくかった「気づきから行動へ」(柱3)のアクティビティを考え、共有することができた

開発教育指導者研修

Zoom を使えるようになった／オンラインでの様々なツールを知り、使えるようになった／SDGs について深く知ることができた／開発教育を実践する仲間に出会えた／SDGs について地域での動きも知ることができた／オンライン上での手法を知ることができた／参加型手法を教科学習で活用でき、授業方法が広がり、子どもたちの参加意欲が高まった／多くの参加型手法を知り、各手法の効果的な使い方がわかった／紹介されたプログラムを授業で実践した／多様な実践を知ることができた／ハードだったが、楽しく学べるということを体感した

3. さっちんの東京研修報告 13:47- [30]

◇ 過年度 JICA 中部教師海外研修および開発教育指導者研修(実践編)受講者である脇田佐知子さんが、JICA 地球ひろば@東京で受講した「国際理解教育／開発教育指導者研修」と実践の報告を行った。

◇ 実践の報告・指導案などの紹介ページ(JICA ウェブサイト)

https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2020/201007_01.html

4. 【ブレイクアウト②】COVID-19 禍の開発教育実践 14:00-[66]

◇ Zoom ブレイクアウトセッション機能を用いて、ランダムに6つのグループになった。

◇ この1年の開発教育の実践について、「どんな工夫をした?または、実践しなかった理由は?」をテーマに自己紹介をした。

◇ 「これから(ポストコロナでもウィズコロナでも)の開発教育実践で工夫できることやアイデア」を自由に話し合い、ワークシートに記入した。

◇ 今年度1年間をふりかえり、「改めて思う対面式の良さ」について、自由に話し合い、ワークシートに記入した。

◇ 全体に戻り、グループの代表者が発表して共有した。



【「これからの開発教育実践で工夫できることやアイデア」一部抜粋】

SDGs について／コロナ禍だからこそ…

SDGs とコロナ禍の関連を考える学習／世界共通の課題に直面していることが明らかになり、課題解決と一緒に考えられる状況になった／身近なところを見直し、関係を作り、教材としていく／SDGs の観点で、学校全体で取り組めることのアイディアを集める

ワークショップでの工夫

ワークショップ中の密を避けるために、付箋紙を多用し、手法や共有の仕方を工夫する／ペアでの作業を増やす／対象者に合わせてワークシートを作る／インプット・アウトプット両方で、写真や動画を効果的に使う

オンラインやオンラインツールの活用

全国や世界からも参加することができる／一人一台のタブレット端末を使えると、参加度合いが上がる／様々なツールを使うことで、対面とは違う方法で参加者の参加度を高めることができる／大人数を一度に対象としたワークショップが可能になる／学習活動ソフト(SKYMENU やロイロノート)を活用する

【「対面式の良さ」一部抜粋】

場の雰囲気が大切で、その場の持っている力を感じることができる／チームのつながり、連帯感を感じられる／主体性を引き出すことができる／ICT スキルの差を考慮なくてよい／誰でも参加することができる／ハンズオン教材を共有できる／成果物の個性ある文字やイラストに、ハンドメイドの力やその人らしさを感じられる／管理下に置かれていないことで、話し合いが進化・深化する／場の雰囲気が一瞬で分かり、進行しやすい／ワークショップの合間や修了後の雑談から交流が深まり、仲間意識が強まる／雑談や“あそび”の部分があり、そこからいいアイデアが生まれる／共同作業、共働学習ができる／困っている人を助けることができる／参加者同士の様子がよくわかり、リズミカルに会話が進む／話すときの熱量、想いの強さが伝わる／フレキシビリティがある、その場で変えていくことが容易／成果物ができあがる達成感を感じられる／テーマに集中して参加することができる／数字や資料、抽象的なもので理解するより、疑似体験や仮想体験ができる／他のグループが話している内容や進行状況を、見たり聞いたりすることができる／実際に体を動かして、他の人やグループの意見を見に行くなど主体的に学ぶことができる／会場までの行き（ワクワク感）と帰り（余韻に浸る）の時間が持てる

5. 開発教育ナビゲーターと開発教育実践グループの紹介 15:06-[24]

- ◇ JICA 江口職員より、開発教育ナビゲーターの役割について紹介し、4名の開発教育ナビゲーターが自己紹介をした。

〈 JICA 中部・開発教育ナビゲーター 〉



国際理解教育、開発教育実践の豊富な経験を持つ教員が、国際理解教育推進や裾野の拡大、地域の実践者のつなぎ役を担う。愛知県、岐阜県、三重県は各2名、静岡県は1名が活動している。

・中 T(中澤 純一さん)

静岡県、中高一貫校で社会科地歴、大学院で多文化共生をテーマに研究中

・KOJI(山本 孝次さん)

愛知県、高校英語、2030SDGs ゲームの提供ができる

・かよちゃん(夏目 佳代子さん)

岐阜県、高校英語、国際理解の時間に限らず普段から意識をもって生徒と接している

・かっちゃん(近藤 勝士さん)

愛知県、小学校公務主任・専門は中学数学、SDGs と肯定的に出会うための授業をよくやっている

- ◇ JICA 研修後に結成された開発教育実践グループの代表者が、活動の紹介を行った。

・中部 BQOE 研究会・・・ Facebook で「中部 BQOE 研究会」検索

・はままつ国際理解教育ネット(はまこくネット)・・・ <https://hamakokunet.hamazo.tv/>・パラオピア・・・ <https://www.facebook.com/paraopia/>・岐阜グローバルラボ42.195・・・ <https://www.facebook.com/gifuglocal>

- ◇ ファシリテーターコメント...開発教育指導者研修や教師海外研修で出会った受講者同士がつながり、周囲へ広げていくと同時に、受講者同士のつながりも維持しながら実践のモチベーションを持続けようという活動がいくつもあることを、うれしくおもっている。関心のある活動があれば、ぜひ参加してほしい。

6. 【ブレイクアウト③】フリートーク「今日この仲間たちと話したいこと」 15:30-[41]

- ◇ 全体で、「今日この仲間たちと話したいこと」のテーマを募った。
- ◇ Zoom ブレイクアウトセッション機能を用いて、それぞれ関心のあるテーマのグループに分かれ、テーマに沿って自由に話し合った。
- ◇ 全体に戻り、グループの代表者が、話し合ってみてわかったことや感想を発表し共有した。

【フリートーク「今日この仲間たちと話したいこと」とメモ抜粋】

タブレットの活用方法

- ・基本的な疑問や活用事例を共有した。
- ・紙の代わりではなく、タブレットを使うからこそできること（例えば、外国など外部とつながること）の可能性を広げていける。

国際理解教育の時間の確保・横断的にどう行っていくか

- ・細切れの時間を使って SDGs を扱う、総合の時間を活用するために担当に立候補し計画を作成したなどの実践事例の共有。
- ・個人レベルでできることを少しずつ取り組んでいき、それが他の先生やクラスに波及していくというのが大切。

地域との連携の仕方

- ・名古屋市独自の取り組みとして、学校と外部をつなぐキャリアナビゲーターの存在は大きい。
- ・一度つながった地域の方やお店とは継続して関わり続けることで、地域から学校への提案も生まれてきた。

学校全体を巻き込んでの環境教育・SDGs

- ・まずは職員が SDGs を知るために職員室に啓発ポスターを貼ったなど、いろいろなアイデアを共有した。
- ・他の先生の協力が得にくい場合は、まず自分が最初実践して、その成果を伝えていくとよい。

英語の授業での実践について

- ・文法を意識しすぎず、考えたり発表したりすることを重視するといい。
- ・教科書以外で活用できる具体的な資料やアイデアを共有し合った。

世界とつながるための授業アイデア

- ・ラジオ体操や料理など文化を扱ったり、NGO の活動に参加したりするなど、様々なアイデアを出し合った。
- ・興味関心を持つきっかけとして、オンライン活用や NGO の活動などたくさんアイデアがある中で、それらを扱った後にどうするか?が大事。

7. 2021年度の開発教育実践に向けた目標と行動宣言 16:21-[08]

- ◇ 各自で「2021年度の開発教育実践に向けた目標と行動宣言」を考えた。
- ◇ 数人が発表し、共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント...楽しく学ぶことから学ぶことが楽しくなっていく、楽しい学びを創り出す教員やファシリテーターが増えることで、社会はより良く変わっていくと信じている。1人で抱え込むと大変なので、受講者同士のつながりを大切に、アドバイスし合いながら実践を続けてもらえたらと思う。

8. 主催者挨拶 16:29-[02]

- ◇ 江口職員が、主催者として 2020 年度の研修参加へのお礼とメッセージを伝え、研修を終了した。

★ 16:31 終了

開発教育・国際理解教育 実践報告フォーラム2021

■ 開催概要

- ◆ 日 時:2021 年 2 月 27 日(土) 午前の部 10:00~12:40 午後の部 14:00~16:54
- ◆ 場 所:オンラインミーティングツール ZOOM (JICA 中部なごや地球ひろばセミナールームAより配信)
- ◆ 参加者数:
 - [午前の部] 参加者 22 名、NIED スタッフ 6 名、JICA スタッフ 3 名、合計 31 名
 - [午後の部] 参加者 29 名、NIED スタッフ 6 名、JICA スタッフ 3 名、合計 38 名
- ◆ ファシリテーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子、久世治靖
- ◆ オペレーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 川合眞二
- ◆ グループファシリテーター: (特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子、久世治靖、田口裕晃、鉄井宣人、伴和子、JICA 中部 江口職員

■ プログラムの内容

● セッション1 「教師海外研修と開発教育実践」(午前・午後共通)

1. 主催者挨拶／研修の概要説明など 10:00-／14:30-[10]

- ◇ JICA 中部 酒本市民参加協力課長が主催者としてあいさつを行った。
- ◇ JICA 中部 江口職員が2020年度の2つの研修(教師海外研修ガイドブック研修／開発教育指導者研修(実践編))の内容について説明した。
- ◇ ファシリテーターが実践報告フォーラムのねらいとプログラムについて説明した。



2. 開発教育・国際理解教育3つの柱／教師海外研修と開発教育実践 10:10-／14:40-[15]

- ◇ ファシリテーターが開発教育・国際理解教育の3つの柱(目的)について説明した。
- ◇ ファシリテーターが資料を画面共有しながら、教師海外研修ガイドブック研修で作成したモデルアクティビティのねらいなどを説明した。

〈開発教育・国際理解教育の3つの柱〉

- 柱1 同じ地球に住む存在として人や国を肯定的に捉えられるようになる
- 柱2 国同士のつながりや人としての共通性に気づけるようになる
- 柱3 人類共通の課題の現状・影響・原因・必要な手立て等について知り・考え・気づくことを通して、持続可能な社会づくりに向け行動できるようになる

● セッション2 モデルアクティビティ体験(小学生編／午前の部) 10:25-12:40

3. アイスブレイク 10:25-[05]

- ◇ マラウイの写真からクイズを行った。

4. 「地球の未来を明るくする！人ひとりの小さな行動（低学年）」ダイジェスト 10:30-[17]

◇ モデルアクティビティのねらいを紹介し、ダイジェスト版を体験した。

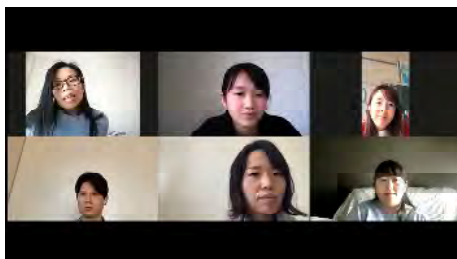
- 1) パラグアイの写真からゴミ問題について紹介した。
- 2) オペレーターがランダムに5つのグループに分け、まずは一言自己紹介を行った。
- 3) 写真で見たような「問題をそのまま放っておくと、町ではどんなことが起こるか？町はどのようになってしまうか？」を話し合い、箇条書きで書き出した。
- 4) グループファシリテーターが写真を基に、問題解決のために現地で行われている取り組みを紹介した。
- 5) 問題を一般化し、「自分たちの身の回りや日本にもある同じ問題」を話し合い、箇条書きで書き出した。
- 6) 身の回りや日本での同じ問題を解決するために、「自分たちにできること、自分がやろうと思うこと」を個人で書き出し、共有した。
- 7) 全体に戻り、ファシリテーターが低学年を対象に実施する場合に使うと有効なワークシートの例を紹介した。

- 休憩 - 11:09-[07]

5. 「世界の課題を知ろう！気づこう！考えよう！（高学年）」ダイジェスト 11:16-[67]

◇ モデルアクティビティのねらいと SDGs（持続可能な開発のための目標）を確認し、ダイジェスト版を体験した。

- 1) ランダムに5つのグループに分かれた。SDGs の 17 のゴールを分担し、担当したゴールの資料「SDGs カード」を各自で読み解いた。
- 2) 読み解いた資料の中から「一番気になるカードと気になったポイント」をテーマに自己紹介をした。
- 3) 一度全体に戻り、写真や写真に関係する数的クイズを通して、エチオピアが抱える課題を紹介した。
- 4) グループに分かれ、「安全な水にアクセスできない」と「子どもたちが学校に通えない」という問題を放っておくとどうなるかを、派生的に考え、書き出した。
- 5) 書き出された事柄から、SDGs に関係するものを探し、ゴールの番号を書き込んだ。
- 6) 全体に戻り、数人が成果物を共有しながら感想を発表した。
- 7) ファシリテーターがパワーポイントの資料を基に、SDGs の目標達成や課題解決のために行われている JICA 等の取り組みを紹介した。
- 8) 「世界の課題解決=SDGs の目標達成のために一人ひとりの行動に必要なこと」を考える方法と、プログラムのポイントを説明した。



【成果物の例】

この写真のような問題をこのまま
何もしないで放っておくと、町で
はどんなことが起こる、どのよう
になってしまうでしょうか。

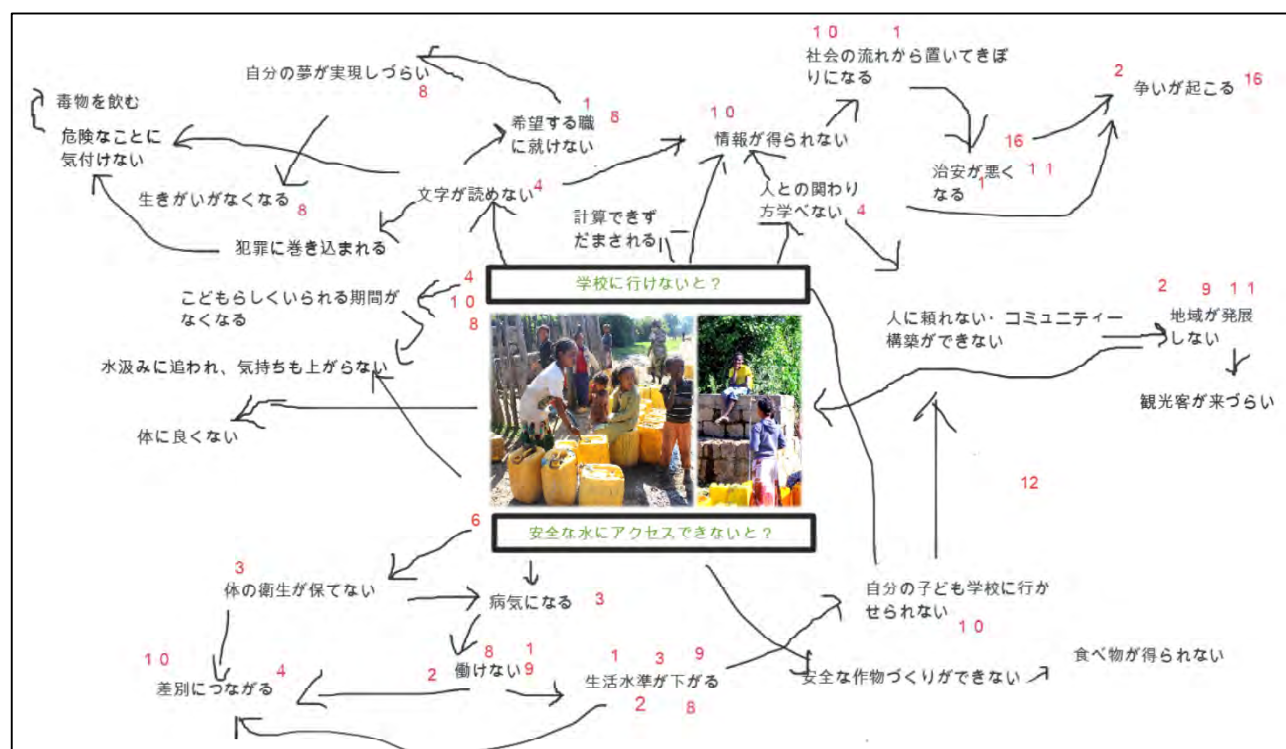
感染症や病気が広がる
悪臭がする
魚が死ぬ
空気が汚れる
ごみを捨てるのが当たり前と思い、捨てる人が増える
観光客が来なくなる
川が汚染される
川で遊べない
きれいな水が使えなくなる

身の回りや日本の似た問題は？

- ・ポイ捨て、たばこ吸い殻のポイ捨て
- ・フードロス
- ・ごみの分別がきちんとされていない
- ・ごみの分別が複雑→面倒で守られない
- ・物が多すぎる
- ・（大量）消費社会
- ・過剰包装
- ・不法廃棄（富士山とか）

左の問題を解決するために、
できること、やろうと思うこと？

- ・食べられる分だけ、買う、用意する
- ・ごみの分別方法をわかりやすく説明するアプリとかウェブページとか
- ・使う分だけ、必要なものを見極められるようにする
- ・過剰包装は、必要がなければ断る
- ・分別した／しなかった結果（メリット／デメリット）が明らかにわかると、意欲がわく



6. ふりかえり 12:23-〔17〕

- ◇ 教師海外研修ガイドブック作成編の受講者が、研修の感想と小学校での実践のポイントについて紹介した。
- ◇ 参加者数名が、本日の感想を発表した。
- ◇ ファシリテーターコメント...小学生低学年に提供するのが難しいと思われがちな柱3のモデルアクティビティを体験してもらった。ぜひ完成したガイドブックを活用して、柱1・2もあわせて実践してもらえたらと思う。
- ◇ JICA 中部 江口職員が終わりのあいさつを行い、午前の部のフォーラムを終了した。

★ 午前の部 12:40 終了

● セッション2 モデルアクティビティ体験(中学・高生向け／午後の部) 14:25-16:54

3. アイスブレイク 14:25-[13]

- ◇ ファシリテーターが出す質問について、「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」のうち当てはまるものをハンドサインで回答した。

〈ファシリテーターからの質問〉

- ① バナナは好きですか？
- ② 英語は話せた方がいいと思いますか？
- ③ 1日の昼食代は250円で十分だと思いますか？
- ◇ 各自で、「自分の1日の生活費はいくらか」とその理由を考え、数人が発表した。
- ◇ ファシリテーターが資料を共有しながら、「絶対的貧困」と「相対的貧困」について、またモデルアクティビティで扱うフィリピンについて説明した。



4. 「貧困をなくす！歩を踏み出そう！」ダイジェスト 14:38-[55]

- ◇ モデルアクティビティのねらいを紹介し、ダイジェスト版を体験した。

- 1) オペレーターがランダムに5つのグループに分け、まずは一言自己紹介を行った。
- 2) フィリピンと日本のちがいが書かれた9枚のカードを読み、グループで話し合いながら①あってよいちがい、②あってはいけないちがい、③どちらでもない、の3種類に分類した。また、どのような観点で分類したのか、①②③のそれぞれの「特徴や要素」を話し合って書き出した。
- 3) 全体に戻り、いくつかのグループが分類したワークシートを共有しながら発表した。
- 4) ファシリテーターがパワーポイントの資料を共有しながら、フィリピンパヤタス地区の様子と課題を写真と数的データから紹介した。
- 5) ファシリテーターが「貧困の輪」の図を紹介し、貧困の特徴である悪循環について説明した。
- 6) グループに分かれ、「貧困の悪循環を断ち切るために必要な手立てや支援」を考え、「貧困の輪」を断ち切るところに書き出した。
- 7) グループファシリテーターが、現地で実際に行われている支援の事例を紹介し、それぞれの活動が「貧困の輪」のどこにアプローチする手立てなのかを話し合った。
- 8) 全体に戻り、ファシリテーターから「フィリピンの貧困解決のためにわたしたちにできること(アクションプラン・行動宣言)」を考える方法として「4つのソーシャルアクション」を紹介した。
- 9) 各自で、「貧困解決のために自分ができること」を考え、数人が発表した。

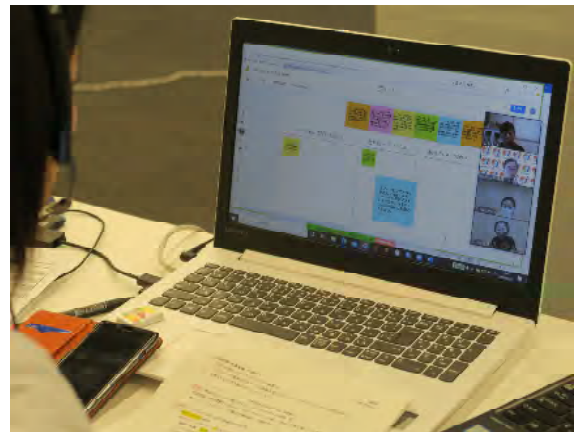
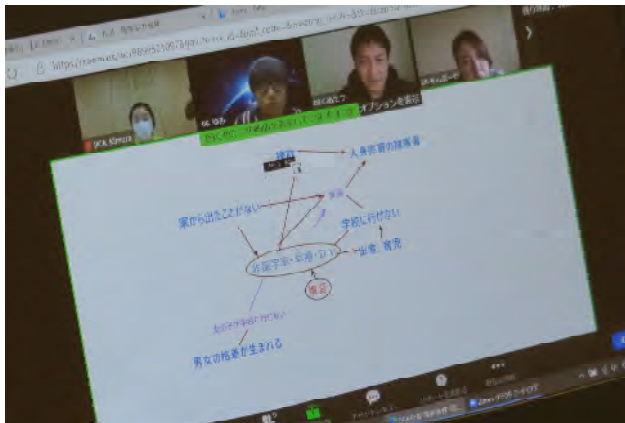
休憩 - 15:33-[06]

5. 「女の子なんかに生まれなきゃよかった…」ダイジェスト 15:39-[67]

- ◇ モデルアクティビティのねらいを紹介し、ダイジェスト版を体験した。

- 1) ファシリテーターが資料を基に「早婚問題」に関するロールプレイの設定と進め方を説明し、確認した。
- 2) オペレーターがランダムに5つのグループに分け、まずは「苦手なこと・もの」をテーマに自己紹介を行った。
- 3) ロールプレイの役割を振り分け、各自で担当する役割カードを読んだ後、ロールプレイを行った。

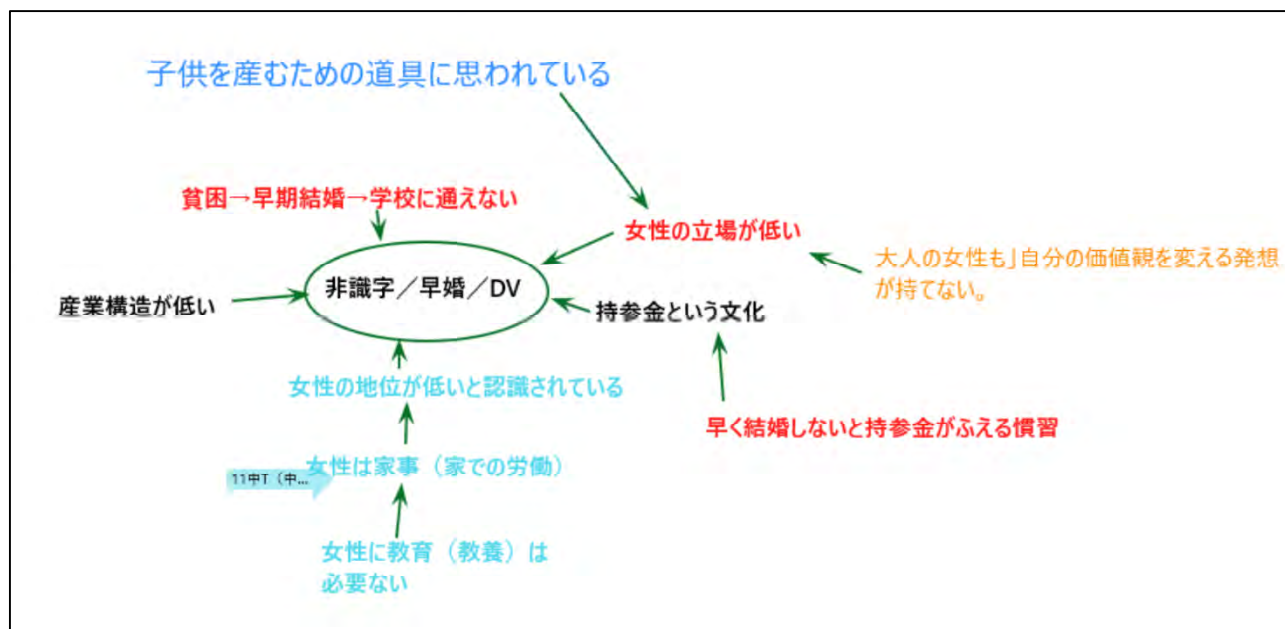
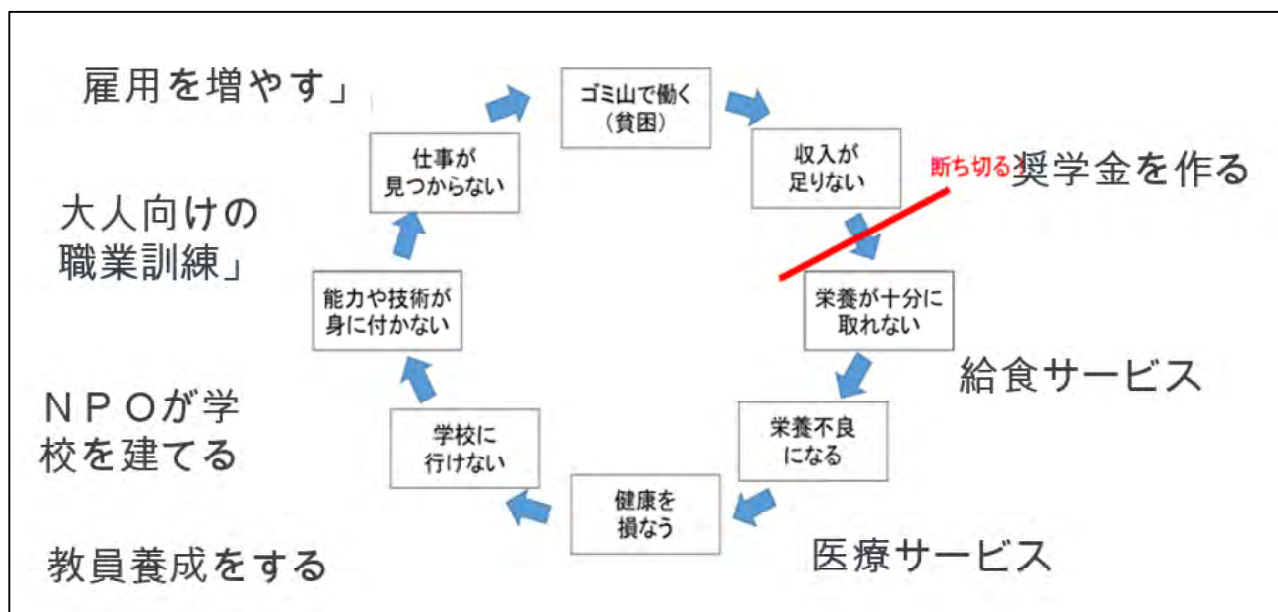
- 4) 各自で登場人物全員の役割カードを読み、それぞれの考えや立場をふりかえり、感じたことなどを自由に話し合った。
- 5) ファシリテーターが写真などの資料を共有しながら、バングラデシュの早婚の実態と NGO などによるエンパワーメント活動、SDGs ゴール5(「ジェンダー平等を実現しよう」)とジェンダーギャップ指数について、説明した。
- 6) グループに分かれ、「3つのジェンダー不平等(非識字率/早婚/DV)の原因や問題が続く背景」を参加型手法「因果関係図」を用いて考えた。
- 7) 全体に戻り、ファシリテーターが資料を基に「構造的暴力と文化的暴力」についてレクチャーし、6)で作成した「因果関係図」で書き出された「文化的暴力」に関わる事柄を確認した。
- 8) 各自で、「ジェンダー不平等是正のために役立つこと、必要なもの」(「構造的暴力/文化的暴力」へのアプローチ)を考え、数人が発表した。
- 9) ファシリテーターが資料を共有しながら、バングラデシュにおけるジェンダー不平等を是正するための取り組み事例を紹介した。
- 10) 実際のプログラムでは、最後に「ジェンダー不平等是正のために、自分が足元からできることを考え、共有する」ことを伝えた。



【成果物の例】

あってはいけないちがい		どちらともいえない	あっていいちがい
<p>⑥フィリピンのマイブさん(7歳)は予防接種を受けたことがなくポリオに罹ったが、日本のDさん(7歳)は予防接種をしているのでポリオに罹らない。</p> <p>⑥フィリピンのニコル君(9歳)は家の収入が少なく不十分な食事であるが、日本のE君はお腹いっぱい食事をしてる。</p> <p>⑥フィリピンのジョセフ君(13歳)は家の手伝いのため学校には行っていないが、日本のA君(13歳)は毎日中学校に通っている。</p> <p>⑥フィリピンでは女性が大統領になったことがあるが、日本では女性が首相になったことは一度もない。</p>		<p>⑥フィリピンのノア君(10歳)は屋外でも裸足で過ごしているが、日本のB君は靴を履いている。</p> <p>⑥フィリピンのマリエルさん(14歳)は学校が終わったらいつも近所の友達と遊んで過ごす。日本のCさん(14歳)は遅くまで塾で勉強している。</p>	<p>⑥フィリピンのアリッサさん(16歳)はおしゃべりのためピアスをしているが、日本のFさん(16歳)は校則でできない。</p> <p>⑥フィリピンのアンジェロ君(15歳)は焼いたバナナを食べることが多いが、日本のG君は生のバナナを食べることが多い。</p>
<p>貧困や子どもたちにはどうにもならないこと</p> <p>SDGsに関係することが多く入っている</p> <p>人権や命に関わること</p>		<p>状況・価値観・環境による</p> <p>健康や安全に関わるものが2つある。経済的ワードが出てきた</p>	<p>地域の文化による</p> <p>環境による</p> <p>個人・家族の好み</p>

※カードの外の記載は、「カードをどのような観点で分類したのか」、それぞれの「特徴や要素」を話し合って書き出した内容。



6. ふりかえり 16:48-[06]

- ◇ 教師海外研修ガイドブック作成編の受講者が、研修の感想と実践のポイントについて紹介した。
- ◇ 参加者数名が、本日の感想を発表した。
- ◇ JICA 中部 江口職員が終わりのあいさつを行い、午後の部のフォーラムを終了した。

★ 午後の部 16:54 終了

■ 参加者アンケート結果

● フォーラムへの期待と満足度について

フォーラム参加者の参加の期待や動機は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」(84%)、「海外の素材を生かしたアクティビティの作り方、進め方について知る」(76%)、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」(70%) が上位3つとなっている。【設問1】。

それらの期待や動機を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」(43%)、「満足できた」(51%) と回答しており、満足度の高いフォーラムであったといえる【設問2】。

設問1：フォーラムに期待したこと・参加動機は何ですか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	31	84%
2	海外の素材を生かしたアクティビティの作り方、進め方について知る	28	76%
3	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	26	70%
4	自らの視野や能力を研鑽する	25	68%
5	オンラインでの進め方について知る	20	54%
6	世界の現状や日本とのつながりを知る	8	22%
7	その他	1	3%
	全体	37	100%

設問2：指導者研修は、あなたの期待を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	16	43%
2	満足できた	19	51%
3	ある程度満足できた	2	5%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体	37	100%

● オンライン開発教育・国際理解教育実践報告フォーラムの良かったところ

<午前の部参加者>

- ◇低学年のプログラムを提供する際、言葉をよりわかりやすく、かんたんに、詰め込みすぎず、を心がけていたが、同じように工夫して実践されている様子を聞き、学びになった。
- ◇年齢に合った実践を知れてよかった。
- ◇過年度の受講生の方とも意見交換できてよかった。学びが広がり、アイデアをいただけた。
- ◇オンラインながら、実際のプログラムを体験することができ非常に良かった。
- ◇参加者もアクティビティの作り方、プロセスを学べるところがよかった。
- ◇アイスブレイクから楽しくてよかった。小学生になりきってアクティビティをする必要がなく、自分の考えを伝えられてよかった。
- ◇モデルアクティビティに実際に参加することで、新たな学びを得ることができた。自分の実践に生かしたいいことが見つかった。
- ◇オンラインでも対面と同じように、参加者の方と考えをシェアでき、学ぶことができた。
- ◇オンラインでのジャムボードを活用した意見交流は初めてで新鮮でした。お会いしたことのなかった遠方の方との交流ができたことも貴重な経験でした。
- ◇オンラインで色々な人とつながれたり、参加型で学べたりして、今のご時世とてもよい経験となった。参加型は知っているプログラムでも、一緒に学ぶ人が違えば新しい発見があり勉強になった。

- ◇開発教育に関わる時間がもてたこと。**NIED** の皆さんに会えて懐かしかった。また初心に戻ってやってみよう！と思う気持ちももてた。
- ◇オンラインでも参加型の学びが可能であることを知れた、様々な受講者からエネルギーをもらえたこと。
- ◇オンラインでのフォーラム開催は、課題はありつつも大変よいものだったと思う。遠方でも参加することができ、また今後の活用次第でさまざまな可能性がありそう。
- ◇オンライン学習初心者だったが事前に注意事項など連絡をしていただけたおかげでスムーズに参加できた。オンライン上でブレイクアウトルームを活用したグループワークについて知り体験できた。開発教育、国際理解教育の学びの柱について詳しく知ることができた。参加者の方の「小学校低学年に対しシンプルに伝えるためにも自分の中で深く理解していくことが大切」という言葉に良い刺激を受けた。
- ◇緊急事態宣言が出ている中でも、このような学びの中で、新たな可能性を知るよい機会になるとともに、改めて対面でのワークショップの良さに気づくことができた。今回のこの研修があったおかげで、今年度も諦めることなく、国際理解教育の実践をすることができた。

<午後の部参加者>

- ◇多くの方とお話できて良かった。 ◇とても参考になった。
- ◇開発教育、国際理解教育の手法や現状をより深く理解することができた。また、**Zoom** を使ったオンラインの参加型手法や、その運営側のことも（一部ではあるが）知ることができた。
- ◇オンラインでも出来ることはわかった。
- ◇開発教育・国際理解教育の内容や参加型の手法、どのようにファシリテートすればよいのか等を学ぶことができたこと。また、オンラインにおける参加型手法についても学ぶことができてよかったと思う。現在ニュースとなっているジェンダー平等に関わるワークショップに触れることができて大変良かった。
- ◇オンラインでのロールプレイは初めての経験だった。**Zoom** の可能性が広がった。
- ◇ガイドブック研修をはじめ、これまでの **NIED** さんの研修は対面式であり、初めて **NIED** さん主催のオンライン研修に参加した。他のオンラインのセミナーや研修に参加したことはあるが、本フォーラムでは **NIED** さんのスタッフの方々のサポートが大変手厚くスムーズに参加することができた。
- ◇リモートでもモデルアクティビティの体験をすることができてよかった。
- ◇**Zoom** で参加型の手法が学べた。
- ◇オンラインで参加型ワークショップを体験できたが何よりよかった。
- ◇汎用モデルアクティビティを実際に体験し、プログラム全体のねらいをしっかりと感じることができた。柱3のねらいを達成するためのアクティビティやプログラムをどのように作っていくと良いかよく分かった。今後、教師海外研修に参加したい人にとって海外研修の目的や実践のイメージがつかめたと思う。
- ◇オンラインでの研修に不安があったが、**NIDE** の方が手伝ってくれ、グループでのアクティビティがスムーズに進んだ。
- ◇教材開発をテーマにした研修はこれまで受講したことがなく、とても参考になった。高い志をもったなかまとお出会う場なので、いつもたくさんの刺激をもらえる。
- ◇オンラインでも話し合ったり、こうして研修が受けられるのが分かった。
- ◇実際に途上国に暮らす子供たちの支援をどうすればいいのか、今、何が進められているのかが知れてよかった。また、小さなグループでほかの人の意見を聞いたり、自分の意見を発信する場ももててよかった。

● オンライン開発教育・国際理解教育実践報告フォーラムをより良くするための提案

＜実践報告＞

- ◇今年度の実践を共有する場が欲しかった。実践報告フォーラムとまではいかなかったかもしれませんが、少しでも共有する場があったら、次年度の実践のインスピレーションを膨らませることができたと思う。
- ◇ダイジェストでもよいので、もっともっとたくさんの実践を知りたいと思った。

＜オンラインの限界＞

- ◇対面式のよさも改めて確認することができ、今後はオンライン、対面双方の良さを取り入れたフォーラムや講座をご検討いただけるとありがたい。
- ◇より汎用性のあるものにするために、教師海外研修だけでなく、開発教育指導者研修でも来年度通常通り実施できない場合は作成を検討するのはどうでしょうか。
- ◇対面でないとつながりを感じたり、よさを感じたりすることが難しいということも実感しました。
- ◇参加型は対面型でないと×。
- ◇自由に話し合う場面では、周りが見えない分、自分が話しているのかとかタイミングをつかむのが難しかった。どうやったらスムーズに進められるのか提案はできません。
- ◇Zoom だとほかの方の雰囲気（息使いとか、視線、ちょっとした体の反応）が伝わらないので、グループで発表者を話し合いの中で決めておけばスムーズだったかも？

＜時間の余裕＞

- ◇実践報告はもう少し時間があるとよいと思った。
- ◇オンラインでの開催なので、時間の長さは妥当かなと思いましたが、「参加型」としては物足りなさもありました。
- ◇半日ではなく 1 日でもよかったと思う。
- ◇対面式に比べるとオンラインでのアクティビティはかなり時間がかかるため、一つのアクティビティをするのに時間が足りなかったのもう少し時間があるとよかった。
- ◇やはり対面でないので、手間取ってしまうこと。でも移動時間を考えたら問題ないかと。

＜具体的進行法＞

- ◇後半のグループでの、自分が出した課題に近いものを、図に番号で記入する所についてだが、最初やり方が分からなかったのもう少し手間取った。そこが慣れたらみんな自由に記入できたかなと思う。
- ◇ジャムボードやチャット、スクリーンの書き込みなど、もう少し効果的に使えるといい。

＜その他＞

- ◇運営側で必要なスキルもより知りたいと思った。

研修全体のふりかえり・評価

※受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。32 名中 27 名が回答。

■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）に対する期待や目的は、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（96%）「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（93%）、「自らの視野や能力を研鑽する」（89%）、が上位3つとなっている。本年度はオンラインでの実施だったことから第4位に「オンラインでの進め方について知る」が入っている一方、「実践者同士で交流し、ネットワークを作る」は37%と比較的割合が少なくなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」（67%）、「満足できた」（26%）と回答しており、満足度の高い研修であったといえる【設問2】。

設問1；指導者研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	26	96%
2	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	25	93%
3	自らの視野や能力を研鑽する	24	89%
4	オンラインでの進め方について知る	19	70%
5	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	10	37%
6	世界の現状や日本とのつながりを知る	10	37%
7	その他	1	4%
	全体	27	100%

設問2；指導者研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	18	67%
2	満足できた	7	26%
3	ある程度満足できた	2	7%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体	27	100%

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

受講者の開発教育・国際理解教育の実践時間の前年度との対比では、「増えた」（30%）よりも減った（41%）が多くなっている【設問3】。

増加した主な理由としては、本研修を受講して知識を得て意欲や自信が高まったことが大きな要因にもなっていることがわかる【設問3-1】。一方、実践時間が減少した主な理由はコロナ禍による影響が上げられている【設問3-2】。

設問3；前年度に比べた実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	増えた	8	30%
2	変わらない	3	11%
3	減った	11	41%
4	無回答・比較できない	5	19%
	全体	27	100%

設問 3-1；実践時間が増えた理由

- ◇学校が休校やオンラインになり苦労はあったが、日常的な実践は例年と同等の機会があった。自身がプログラムをつくる機会は立場や役割が変わったことで短時間のものですが昨年より増えた。
- ◇研修で知った貿易ゲームについての教材を取り寄せ、実践した。国際理解教育とは異なるが、研修を受けて、派生図などの手法を授業に取り入れることができた。
- ◇昨年の実践を振り返って、さまざまな教科の学習の中で活用できると感じていたので、今年度は教科横断型の国際理解教育を心がけて実践に臨んだ。国語、社会、算数、図画工作、総合的な学習の時間について、環境をテーマに考えることができた。参加型学習方法についても、コロナ禍による学習方法に合わせて実施の仕方を工夫しながら行うことで、満足いくまでとはいかないものの、たくさんの実戦を行うことができた。また、今年度は、所属する地域の若手を中心とした学習会にて、国際理解教育についての学習会を実施することができた。開発指導者研修に参加したことのある経験者 4 名でプログラムを作成し、可能な限りの参加型学習方法を提案しながら、国際理解教育について体験してもらうことができた。
- ◇研修したことを忘れないようにするために、実践しようところをかけた。まだまだ改善点ばかりですが、昨年度より増えた。
- ◇理由は、元々予定していたからと、研修によって学習者にどんな手立てが必要か考えられるようになったので追加したから。
- ◇ごみ問題など開発教育が取り組んできた問題の重みが目立ちはじめたことと、現場に参加型の手法を用いる人が増えたことで、教員、生徒両方の理解が得られはじめたことのため。
- ◇コロナの影響で実施することができない行事があったため、学年をあげて通年で国際理解教育を行いました。
- ◇JICA 北海道（帯広）で、チャドの研修員との価値観の違いから SDGs を考える授業を作り、道東・オホーツク地域の小・中・高へ出前授業やオンライン授業や教育委員会へ開発教育・国際理解教育の実践をお届けすることができたのは、この研修のおかげだと思っている。

設問 3-2；実践時間が減った理由

- ◇開発教育・国際理解教育の実践がしにくい授業の担当だったため。
- ◇2020 年のパンデミックが始まってしばらくは、オンライン下での研修実施について探り探りであったため、自身もオンラインでのワークについてトライ＆エラーの日々だった。徐々に慣れていき、未熟ながらも実施出来た。
- ◇コロナの影響で 1・2 月に今年度の実践のまとめをする予定だったが、緊急事態宣言のためやめた。
- ◇校内では実践ができなかった。コロナの影響もあり授業の進度を優先しなければならなかった。
- ◇コロナの影響で、参加型の実践自体は減ったと感じる。しかし、SDGs の特集のテレビ番組や取り組みの紹介が今年は多かったように思う。そして、それをきっかけに、取り組みとからめやすかったと感じた。
- ◇コロナ対応の教育活動の制限があり、体の接触や顔を近づけるようなグループ活動は実施が難しかった。休校明けに転勤先での実施だったので、教科の時間の中で実践が可能な学年に SDGs 関連の過去の実践例をレクチャーした。
- ◇コロナ禍の影響。多忙化。 ◇授業の持ち方が変わった。
- ◇学級担任ではなくなったため教科や時数が限られるため。その代わり職員研修等で実施することができた。
- ◇学校現場勤務ではないため、減ってしまったが、教育委員会の立場で教職員研修を企画することはできた。
- ◇学級での実践はできたが、全校での実践は、集まることができなかったためできなかった。

● 実践内容

前年度に比べて実践内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」42%、「深まった」45%、「ある程度深まった」11%との回答が得られ97%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問4】。

深まった主な理由としては、本研修を受講して知識を得て意欲や自信が高まったことが要因にもなっていることがわかる【設問4-1】。一方、深まらなかった理由は下記のとおりである【設問4-2】。

設問4；前年度に比べて本年度の実践内容はどのように変わったと思いますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	深まった	17	63%
2	変わらない	0	0%
3	深まらなかった	2	7%
4	無回答・比較できない	8	30%
	全体	27	100%

設問4-1；実践内容が深まった理由

- ◇同じテーマ（人権・他者尊重・平和・コロナ禍での課題など）に継続的に取り組むことができた点で深めることができたと思う。研修で学んだ手法やスキルを活かすことで、子ども達のはなしやすい場をつくることができた。
- ◇研修を受けて気づき、授業で実践ができた。しかし勤務校ではSDGsについて、学校全体のカリキュラムや実践はなく、自分自身がより深めて同僚の参画も促せるように、研修を続けていきたいと思っている。
- ◇「学習をこれからも続けたい」と感想を記述する児童が多く、国際理解教育に対する期待を膨らませる児童が多くいた。参加型学習方法を満足に実践できなかったり、行動に移そうという場面で緊急事態宣言が出たりして、不十分な結果にはなってしまったが、次年度にも十分つながる実践ではあった。特に、環境面については、プラスチックごみの問題、フードロスの問題、水の問題、地球温暖化の問題について、関心をもった問題について意欲的に学習に臨む児童が多くいた。
- ◇一つのテーマについて多様な手法で取り組むことができるようになり、参加者の理解度、満足度が深まったと感じられる。対面からオンラインに変わったため、参加者同士のつながりは希薄になったと思う。
- ◇実践の中で手法を知ることができた。
- ◇研修2年目ということもあり、昨年度は理解できなかったところを深化することができたため。
- ◇オンラインという今までとは違った形の中行っただけでは、深まった方だと思う。もちろん対面の方が深まりや広がりはあるが、全てがオンライン中心になった中では◎ではないかと思う。
- ◇研修で学んだことを人権の実践に活かすことができた。世界人権宣言を絵に描くなど、コロナの影響があっても実施できる参加型手法を学ぶことができた。
- ◇実践はできていないが、内容は深まった。また、研修で学んだことを現場の職員に派生させ、来年以降により深く活用していけると感じている。
- ◇対面でのフォローが難しかったので、オンラインやICTの方法を生かした資料提示に心がけることができた。時間も限られていたので、指示や発問をすっきりさせる努力をした。
- ◇コロナ禍での取り組みの模索。
- ◇理由は、単発ではなく連続した学習をすすめることによって、ファシリテーターも学習者も知識を増やしたから。また、研修の学びをすぐさま現場に反映できたことにより、私自身が熱を入れて授業に取り組めたから。また教えてもらった資料や、インターネット・図書館など、アクセスできたデータが多かったから。
- ◇今年度の8月にフェアトレードに関する実践を行った。この研修で学んだ手法を次年度より取り入れたいと思っている。次年度に向けて、開発教育・国際理解教育の実践の内容が深まったと思っている。

- ◇コロナや今の生活に結びついたテーマで、開発教育・国際理解教育を実践できた。
- ◇深まりではないかもしれないが、参加型の手法を取り入れて、学級会を行い、どの子も活発に自分の考えを
発表したり相手の話を聞いたりすることができた。
- ◇生徒に、SDGsなどの知識がなかったり、自分の将来への不安もあったりした。しかし実践を通して、自分
の知らないことを知れたり、行動宣言などの成果物に将来への方向性が見えるようになったりした。
- ◇様々な手法や活用できるサイトを教えてもらったことで、内容を深めることができた。

設問 4-2；実践内容が深まらなかった理由

- ◇今年は高校一年生担当で、とりあえず「知る」ということを目標にした。なので、「行動する」まで持ってい
けなかった。
- ◇「一方的・講義形式・浅い学び」の授業形態が多くなってしまった。

● 参加型のスキル

指導者研修を通して「気づきから行動へつながるプログラム」を作れるようになったかについては、「とても作れるようになった」7%「作れるようになった」44%、「ある程度作れるようになった」44%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問 5】。

設問 5；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	2	8%
2	作れるようになった	12	44%
3	ある程度作れるようになった	12	44%
4	あまり作れるようにはならなかった	1	4%
5	作れるようにはならなかった	0	0%
	全体	27	100%

■ 全体を通して

● 最も大きな学びや変化

「受講者の1年間の研修を通じた最も大きな学びや変化」についての回答は、以下のとおりである【設問 6】。

設問 6；1年間の研修を通して、あなたの最も大きな学びや変化は何でしたか？

- ◇正解はなく、問いかけ、考え続けることの大切さ。国際理解教育を身近に感じ、日々の暮らしの中でアンテナを張っていこう！と思った。
- ◇知識が広がり、深まったこと。日々の仕事に対しても前向きなチャレンジする気持ちが高まった。例えば、次の授業でやってみよう、とか、教員研修の場で発信してみたい、など、研修後に前向きなチャレンジする気持ちが生まれてくるのを感じた。
- ◇国際理解教育を中心とした教材研究を行うことができるようになったこと。参加型学習方法の効果を活かした学習プログラムを考えることができるようになったこと。
- ◇SDGsについて学べたことと、自分の指導の幅（引き出し）が広がったことです。

- ◇オンラインでの進め方について知ることができた。 ◇参加型手法の取り入れ方。
- ◇今後のワークショップに使うことができる、多くの手法を学ぶことができた。
- ◇講義型でなく、参加型の様々な手法を体験することで指導のイメージが付きやすかった。
- ◇世界に目を向けて考えることができるようになった。
- ◇オンラインでもいろんなことができるということを体験できたこと。
- ◇オンラインでも、練習して習得すれば、開発教育・国際理解教育は十分よい気付きの場を作ることができるという点。また、このような困難な状況下でも、同じようにより学びを作ろうとする仲間がいるということ。
- ◇オンラインでの参加型手法について学ぶことができた。タブレットが来年導入されたら、自分でも実際にやってみたいと思う。
- ◇開発教育を実践している教員の方々と共に学び視野広がったこと。現状や取り組みを共有できたこと。
- ◇オンラインでの手法を学べたり、今までの実践を振り返り、理解を整理したりできたこと。
- ◇国際理解教育を固定したものと考えず、新しい技法や知識を常にアップデートすることが必要だと学んだ。
- ◇オンラインであってもこの研修をやるんだ！というNIEDの信念。人は人の意気に感じるのだということ。
- ◇中部地域の開発教育や国際理解教育に対する熱意を感じたこと。(関西での研修に参加したことはないが。)実践している人の多さを感じたこと、それにより自分の意識も実践をすることまで考えるようになったこと。一人で考えたり、実践しているとモチベーションが維持しにくいので、研修に参加することは非常に刺激になるとわかったこと。
- ◇参加型の手法を学ぶことができたことと実際にプログラムを作成することができたこと。また、東海地方の開発教育・国際理解教育の実践を熱心にされている先生方と出会えたことも大きな収穫だったと思っている。今後もこのご縁を大切にしたいと思う。
- ◇具体的にさまざまな参加型学習の方法を学べたことがおおきな学びだった。そして、国際理解教育とは、狭義の意味でしかとらえられていなかったな、本質は個人が地球市民として生きていくための根本の学びだなと認識が大きく広がった。
- ◇対象の学年に応じた発問・課題の提示の仕方。いつも研修内容をそのまま小学生で実践するのは難しいと考えていたため。また、プログラムを考える際に、参加者が様々な手法を知っていると、よいプログラムが考えられるということを体感できた。
- ◇オンラインにおいても、参加型手法を取り入れることが可能であると実感できたこと。
- ◇オンラインでの参加型のやり方を学べたこと。
- ◇今回参加型の手法を、多数列挙、説明していただいた。その後、プログラムの流れが、わかるようになった。大きな喜びだった。
- ◇参加型の学習は楽しいということを改めて学んだ。様々な人が意見を言い、より良い答えを導いていくという形をできるだけ多く、授業や活動で行ってきたいという気持ちになった。
- ◇オンラインで行う参加型手法の実践を学ぶことで、オンライン上でも学びを止めずに双方向の学びを提供できると実感できたこと。
- ◇研修者と様々な意見交換をしながら開発教育を知ることができ、開発教育の面白さを知ることができた。
- ◇知識としてだけでなく、実際に話しあい体験する中で開発教育の手法を学ぶことができた。

■ 開発教育指導者研修（実践編）への評価・提案

● オンライン開発教育指導者研修（実践編）の良かったところ

- ◇オンラインで不安があったが、考えるための資料の提供やインプットとアウトプットのメリハリもあって、あっという間に時間が過ぎた。最後にみんなで会えたらよかったね。リアルの良さを改めて感じた。雑談って大事だったんだなあ～参加型のWSを有意義にするために、こんなにたくさんの手法あったとは！びっくりした。日々ファシリテーターの方々の実践を見ているが、たくさん気づきが得られ、多くの工夫がなされていることを改めて感じた。
- ◇開催のために、想像を絶する研究と準備があったのだろうと感じた。オンラインではあったが満足している。もちろん、みんなで顔を合わせながらの学習の方がいいが、オンラインでここまで勉強になったのだから、もし顔を合わせて学習できていたらと考えると、わくわくが止まらない。
- ◇スタッフの皆さんの連携がしっかりとれていて、慣れないオンラインでも安心して参加できた。
- ◇事前にプログラムや資料を送ってもらったことで、参加もしやすくなり、また自分での振り返りの時にも役に立った。
- ◇実践的であった。オンラインでも、十分活動できることがわかった。
- ◇オンラインでも継続して学ぶことができ、とてもよかった。
- ◇いろいろな手法やオンライン上での利用できるプラットフォームを体験できた。
- ◇参加型手法の種類を、どのような場合にどれを使うとよいかを学べたことがよかった。
- ◇ズームでグループに分かれても、ファシリテーターの人が最初に司会をして頂けたことで話し合いがスムーズにできた。参加型がコロナで制限される学校でも、できるようなアクティビティを知ることができた。
- ◇オンラインの手法を開発教育の手法とともに整理して学ぶことができたこと。
- ◇電波状況や機材操作がうまくいかなかった部分で何度もご迷惑をかけたが、フォローをしてくれて助かった。
- ◇事前にレジュメが配られていたので、見通しが持てた。豊富な資料が紹介されていた。知識習得、伝達、思考、共有など、学習のバリエーションが豊富だった。何よりも、実践しながら手法を学べたので、その手法が何にどうアプローチできるか、どんな思考をもたらすか、どれくらいの時間がかかるかなど、細かいところまで体感できた。
- ◇オンラインでも開発教育・国際理解教育を参加型で実践する手法を学ぶことができたことは、今年度ならではの良さであったと思う。
- ◇グループファシリテーターによりサポートをいただけて、グループワークができたことはよかった。
- ◇初のオンラインということで緊張したり手間取ったりしたこともあったが、楽しく研修に参加できた。
- ◇グループで活動する時間が思ったよりも多くあったのでよかった。
- ◇多彩な手法の使い方についての演習が良かった。すぐに授業に反映させられそうだった。
- ◇第3回に「習うより、慣れよ」ということで実際に実践を作ってみるという時間がとても良かった。様々な方と「この手法を入れるといいのでは？」など話をする時間がとても有意義だった。
- ◇「学んだ側の態度と行動が変わる」、そのための数々のWSから参加者の価値観を知り自分の行動を振り返れたことがよかった。
- ◇開発教育の意欲的な実践者の方々との交流を通して、よい刺激を受けた。

● オンライン開発教育指導者研修(実践編)のより良くするための提案

＜内容面～参加型手法の習得法＞

◇少しイメージをわかせるためにも、練習問題的にこのようなケース...という例題を自身でどの参加型手法が合うか考える時間があるとよりイメージがわかりやすかと思った。

＜時間的余裕＞

◇全体的に時間に制約があったように思う。

◇より良くするためにももう少し時間の余裕があると良いと思いました。

＜グループファシリテーターの関わり＞

◇グループファシリテーターによっては、話しすぎかなと思うときもあった。

◇個別で考えている時にグループファシリテーターのお話があって個別に考えることに集中できなくなったり、意見が出た後にグループファシリテーターが発言者の発言内容を繰り返したり、解説したりすることで、時間が短くなったり参加者同士の意見が活発に交わされなくなってしまったことがあった。

＜パソコン・ソフト操作＞

◇Google ジャムボードは動作が遅かった。(こちらのパソコンの性能の問題もあったと思われる。)

◇オンラインならではの対話のタイミングやアイスブレイク、ブレイクルーム内のファシリテーターなしでの対話の進め方はもう少し慣れが必要、またはどう始めていくかというのを工夫した方がいいと感じた。

◇オンライン前提でならばソフトの使い方を知っているかいないか、で参加できるかできないかが決まってしまう。ゆえにこの質問はIT 貧困層には厳しい。

＜受講者同士が交流する機会～オンライン、オフライン＞

◇オンラインでは難しいと思うが、ワークショップの時間以外に、参加者同士の交流する場をもっと作ってもらえるとよかった。

◇個別に交流することが少なかったため、何か機会があればと思った。

◇やはり、直接参加者の方々とお会いする機会がほしかった。次回は、対面で実施される研修に参加したいと思っている。

■ 第4回つながりワークショップへの評価・提案

● 第4回つながりワークショップの良かったところ

＜オンライン開発教育指導者研修(実践編受講者)＞

◇実践報告があり、公立の先生方の日々の努力や苦労を知ることができた。オルタナティブ・スクールのスタッフの立場で参加をさせてもらったが、現場での課題は異なり、改めて教育の在り方を考えさせられた。

◇終わりではなく、つながっていく仲間の活動が知れたのがよかった。来年度はオンラインではなく、対面式での開発教育指導者研修を考えているとのアナウンスがあったので、詳細が決定してれば知りたいと思った。

◇最後に、参加者の皆さんと一つのテーマについて自由に話せたのがよかった。

◇話す時間が長くとられていて良かった。

◇いつもはブレイクタイムしていた部分を補ってもらったように思う。今後の学びの場を教えてもらった。

◇今までのラップアップや、GIGA スクールの話、小学校での英語教育のアクティビティ等、ホットな話題の意見交換が出来たことが、来年度の教育に生かせる流れやアイデアを知れてよかった。

- ◇自分たちの興味のあるところに集まって、自由に討議する時間が取れたことがよかった。
- ◇ガイドブック研修の人とオンラインの人が一緒に研修を受けることができた。多くの人の実践を聞くことができてよかった。
- ◇これまでの学びの振り返りができ、実際にいくつかのワークショップを体験できたのがよかった。
- ◇ガイドブックを作成されていた方々と交流する機会があってよかった。
- ◇自分の聞きたいことのグループに入ってみなさんと交流することができたこと。
- ◇いろんな方の実践経験や今後の展望の話が聞けて、参考になった。
- ◇ワールドカフェで、ブレイクアウトルーム内の構成員がどんどん変わると良いと思った。
- ◇参加をしている方々に質問をしてみたいと思うことが多々あったので、最後にテーマを決めて、そのテーマに興味がある人が集まって話をするのができ良かったと思う。
- ◇実際の授業を紹介してくださった時間。
- ◇今年度の実践を共有する場が欲しかったです。実践報告フォーラムとまではいかなかったかもしれないが、少しでも共有する場があったら、次年度の実践のインスピレーションを膨らませることができたと思う。

＜教師海外研修ガイドブック作成編受講者＞

- ◇指導者研修後も開発教育・国際理解教育を続けていきたいという先生方を知り、互いに応援し合うことを可能にするこのようなワークショップそのものがよい。
- ◇国際理解教育のもつ力を改めて感じる事ができた。今後の実践における工夫やアイデア、対面ワークショップのよさ、フリートークなどで、今考えていることについて話し合えたこと。いろんな先生の実践やアイデア、思いを聞いて、自分もがんばろうと思った。
- ◇「つながりワークショップ」タイトルにもあるように、オンラインを通して様々な人つながったり、久しぶりに会えた人もいた。
- ◇コロナの状況下でも実践した方の話をきき、考え方ややり方を変えれば、いつも通りにアクティビティも行えたとわかった。
- ◇久しぶりに顔を見ることができた方々が多くいて、まずそれがよかった。オンライン研修の方々ともつながれたこともよかった。
- ◇コロナ禍での工夫、オンラインだからできることなど、自分には無いアイデアで勉強になった。
- ◇教師海外研修ガイドブック研修の成果を仲間と出し合い、この研修での学びをしっかりと振り返る時間になったことがよかった。
- ◇久しぶりに顔が見れた方もいらして充実した内容だった。
- ◇教員だけでなく様々な立場の方とお話ができ良かった。
- ◇ガイドブック研修の方とオンライン研修の方、自分の知っている別グループの人同士が繋がって話し合うことは、とても素晴らしいことだと思った。意見が深まるだけでなく、自分の実践をもっとよいものにしようという刺激をもらうことができた。様々なグループの活動を知ることができて、自分も頑張りたいと思えた。
- ◇コロナ禍でも、過年度受講者の方々とお話ができ、刺激を受けた。

2020 年度 オンライン開発教育指導者研修 報告書

発 行 2021 年 3 月

発 行 者 独立行政法人国際協力機構 中部センター（ JICA 中部 ）

〒453-0872 名古屋市中村区平池町 4 丁目 60-7

Tel : 052-533-0220（代表） Fax : 052-564-3751

<http://www.jica.go.jp/chubu/>

